

発行者情報

【表紙】

【公表書類】	発行者情報
【公表日】	2021年5月27日
【発行者の名称】	オージックグループ株式会社
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 田中 文彦
【本店の所在の場所】	大阪府東大阪市菱江一丁目15番33号
【電話番号】	(072)965-1011 (代表)
【事務連絡者氏名】	取締役経営管理本部 コーポレートアカウンティング部長 金田 善雄
【担当 J-Adviser の名称】	フィリップ証券株式会社
【担当 J-Adviser の代表者の役職氏名】	代表取締役 下山 均
【担当 J-Adviser の本店の所在の場所】	東京都中央区日本橋兜町4番2号
【担当 J-Adviser の財務状況が公表されるウェブサイトのアドレス】	https://www.phillip.co.jp/
【電話番号】	(03)3666-2101
【取引所金融商品市場等に関する事項】	当社は、当社普通株式を2021年6月30日に TOKYO PRO Market へ上場する予定であります。 上場に際して特定投資家向け取得勧誘又は特定投資家向け売付け勧誘等を実施しないことから、特定上場有価証券に関する有価証券上場規程の特例第110条第3項の規定により、発行者情報に相当する情報を公表いたします。 また、振替機関の名称及び住所は下記のとおりです。 名称：株式会社証券保管振替機構 住所：東京都中央区日本橋茅場町二丁目1番1号
【公表されるホームページのアドレス】	オージックグループ株式会社 http://www.ogicgroup.co.jp/ 株式会社東京証券取引所 https://www.jpx.co.jp/
【投資者に対する注意事項】	
1 TOKYO PRO Market は、特定投資家等を対象とした市場であり、その上場会社は、高い投資リスクを含んでいる場合があります。投資者は、TOKYO PRO Market の上場会社に適用される上場適格性要件及び適時開示基準並びに市場価格の変動に関するリスクに留意し、自らの責任で投資を行う必要があります。また、投資者は、発行者情報により公表された情報を慎重に検討した上で投資判断を行う必要があります。特に、第一部 第3 4【事業等のリスク】において公表された情報を慎重に検討する必要があります。	
2 発行者情報を公表した発行者のその公表の時における役員（金融商品取引法（以下「法」という。）第21条第1項第1号に規定する役員（取締役、会計参与、監査役若しくは執行役又はこれらに準ずる者）をいう。）は、発行者情報のうちに重要な事項について虚偽の情報があり、又は公表すべき重要な事項若しくは誤解を生じさせないために必要な重要な事実に関する情報が欠けていたときは、法第27条の34において準用する法第22条の規定に基づき、当該有価証券を取得した者に対し、情報が虚偽であり又は欠けていることにより生じた損害を賠償	

する責任を負います。ただし、当該有価証券を取得した者がその取得の申込みの際に、情報が虚偽であり、又は欠けていることを知っていたときは、この限りではありません。また、当該役員は、情報が虚偽であり又は欠けていることを知らず、かつ、相当な注意を用いたにもかかわらず知ることができなかったことを証明したときは、上記賠償責任を負いません。

- 3 TOKYO PRO Market における取引所規則の枠組みは、基本的な部分において日本の一般的な取引所金融商品市場に適用される取引所規則の枠組みと異なっています。すなわち、TOKYO PRO Market においては、J-Adviser が重要な役割を担います。TOKYO PRO Market の上場会社は、特定上場有価証券に関する有価証券上場規程の特例に従って、各上場会社のために行動する J-Adviser を選任する必要があります。J-Adviser の役割には、上場適格性要件に関する助言及び指導、並びに上場申請手続のマネジメントが含まれます。これらの点について、投資者は、東京証券取引所のホームページ等に掲げられる TOKYO PRO Market に係る諸規則に留意する必要があります。
- 4 東京証券取引所は、発行者情報の内容（発行者情報に虚偽の情報があるか否か、又は公表すべき事項若しくは誤解を生じさせないために必要な重要な事実に関する情報が欠けているか否かという点を含みますが、これらに限られません。）について、何らの表明又は保証等をしておらず、前記賠償責任その他の一切の責任を負いません。

第一部【企業情報】

第1【本国における法制等の概要】

該当事項はありません。

第2【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

連結経営指標等

回次		第42期	第43期	第44期	第45期(中間)
決算年月		2018年6月	2019年6月	2020年6月	2020年12月
売上高	(千円)	—	3,993,708	3,739,851	1,631,572
経常損失(△)	(千円)	—	△19,851	△173,632	△252,569
親会社株主に帰属する当期(中間)純利益	(千円)	—	215,192	257,182	45,551
包括利益又は中間包括利益	(千円)	—	69,968	279,668	45,714
純資産額	(千円)	—	725,002	1,027,979	1,065,893
総資産額	(千円)	—	5,970,790	6,911,771	6,719,677
1株当たり純資産額	(円)	—	72,500,275.70	790.75	819.91
1株当たり配当額 (1株当たり中間配当額)	(円)	— (—)	— (—)	60 (—)	— (—)
1株当たり当期(中間)純利益	(円)	—	21,519,262.40	2,373.78	35.04
潜在株式調整後1株当たり当期(中間)純利益	(円)	—	—	—	—
自己資本比率	(%)	—	12.1	14.9	15.9
自己資本利益率	(%)	—	31.4	29.3	4.4
株価収益率	(倍)	—	—	—	—
配当性向	(%)	—	—	—	—
営業活動によるキャッシュ・フロー	(千円)	—	609,011	798,992	6,899
投資活動によるキャッシュ・フロー	(千円)	—	△228,710	31,225	351,785
財務活動によるキャッシュ・フロー	(千円)	—	△36,703	△398,090	△208,602
現金及び現金同等物の期末(中間期末)残高	(千円)	—	761,680	1,194,428	1,344,569
従業員数 (外、平均臨時雇用者数)	(人)	— (—)	269 (11)	339 (16)	353 (15)

(注) 1. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2. 当社は2020年5月15日付で、当社普通株式20,000株を1株とする株式併合を実施しております。また、2020年12月10日付で普通株式1株につき10株の株式分割を行いました。第43期の期首に当該株式併合及び株式分割が行われたと仮定して、1株当たり純資産額及び1株当たり当期(中間)純利益を算定しております。

3. 潜在株式調整後1株当たり当期(中間)純利益については、当社株式は非上場であり潜在株式が存在しないため記載しておりません。

4. 株価収益率については、当社株式が非上場であるため記載しておりません。

5. 第 42 期は連結財務諸表を作成しておりませんので、連結経営指標等については記載しておりません。
6. 従業員数は就業人員であり、臨時雇用者数は、年間の平均人員を（ ）外教で記載しております。
7. 株式会社東京証券取引所の「特定上場有価証券に関する有価証券上場規程の特例」第 110 条第 5 項の規定に基づき、第 44 期の連結財務諸表について、ひかり監査法人の監査を受けておりますが、第 43 期の連結財務諸表については、当該監査を受けておりません。また、第 45 期中間の中間連結財務諸表については、「特定上場有価証券に関する有価証券上場規程の特例」第 110 条 5 項の規定に基づき、ひかり監査法人の中間監査を受けております。

2【沿革】

当社の実質上の事業活動は、1933年8月の株式会社中井歯切工業の創業に遡ります。その後、金属加工の技術力が評価され、1938年に松下電器産業株式会社（現パナソニック株式会社）の100%出資子会社である松下金属株式会社に吸収されました。戦後、松下電器産業株式会社の事業再編に伴い、1952年4月に持株比率を松下電器産業株式会社が90%と創業者である田中栄蔵が10%を出資し、金属加工を目的とする株式会社大阪歯車工作所を設立しております。1969年5月には、松下電器産業株式会社より田中栄蔵が50%及び他の株式会社大阪歯車工作所役員が10%の株式譲渡を受け、さらに1970年3月には、田中栄蔵の次男である田中修二が、残りの30%の株式譲渡を受けたことにより、松下電器産業株式会社より独立した企業となりました。1991年4月に社名を株式会社オージックに変更しております。

当社は、1976年9月に株式会社オージックと同住所地に精密歯車等の販売を目的とした日本標準歯車販売株式会社として設立しております。その後、2019年8月にオージックグループ株式会社へ商号変更を行っております。2020年6月には、当社（オージックグループ株式会社）と株式会社オージックとの間における株式交換により、株式会社オージックは、当社の子会社となっております。

当社の設立以降、現在の企業集団に至るまでの経緯は、次のとおりです。

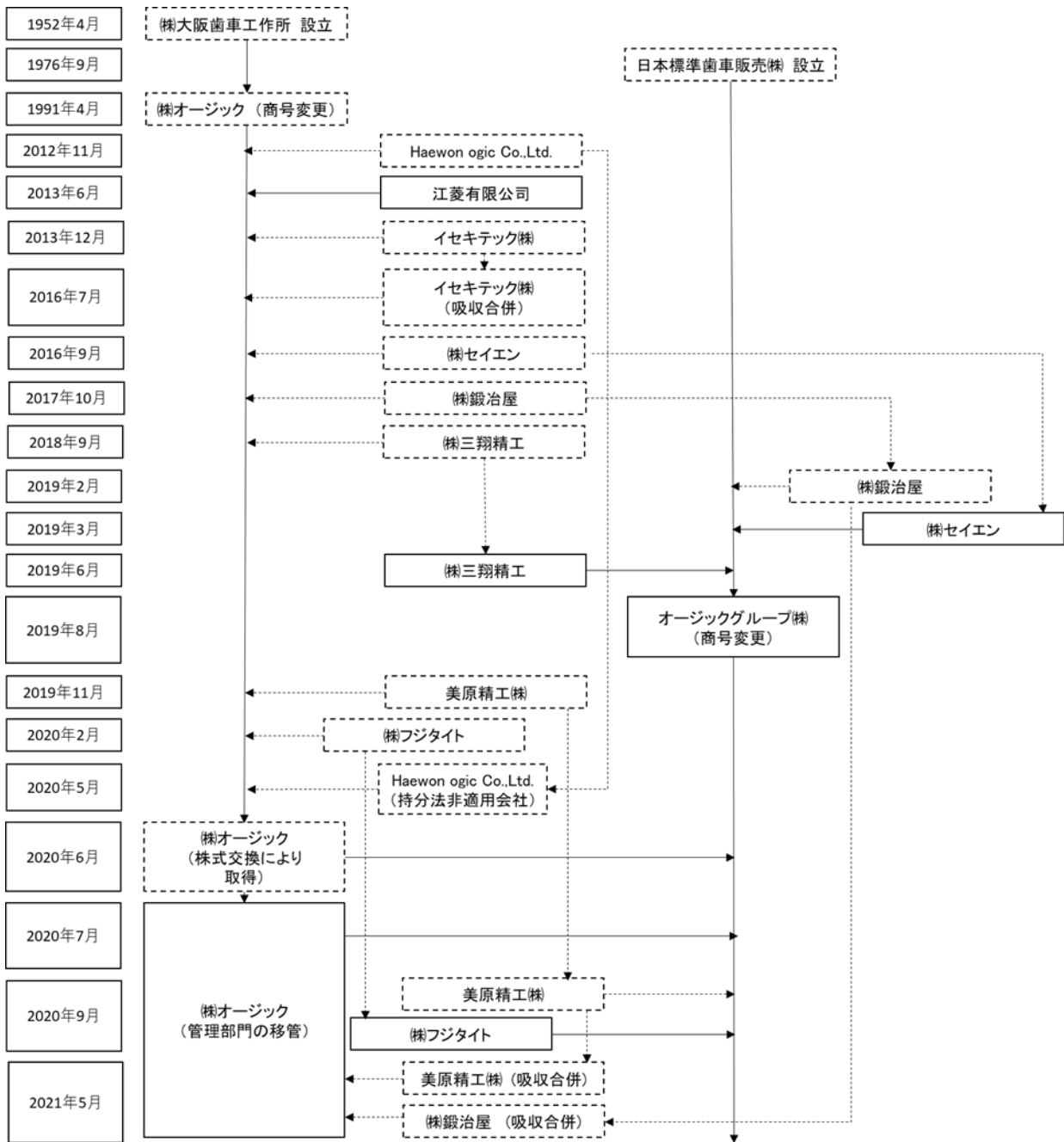
年月	事項
1976年9月	大阪府東大阪市菱江に日本標準歯車販売株式会社を設立し、歯車の販売を開始
2017年6月	当社における販売活動を株式会社オージックに集約
2019年2月	株式会社鍛冶屋の株式取得
2019年3月	株式会社セイエンの株式取得
2019年6月	株式会社三翔精工の株式取得
2019年8月	日本標準歯車販売株式会社からオージックグループ株式会社へ商号変更
2020年6月	株式会社オージックの株式を株式交換により取得
2020年7月	株式会社オージックの経営管理部門を当社へ移管
2020年9月	美原精工株式会社及び株式会社フジタイトの株式を現物配当により取得
2021年5月	株式会社オージックを存続会社とする吸収合併方式で、株式会社鍛冶屋及び美原精工株式会社を吸収消滅会社とする吸収合併を行う

当社の中核企業である株式会社オージックの設立以降の経緯は次のとおりです。

年月	事項
1952年4月	金属加工を目的とする株式会社大阪歯車工作所を大阪府守口市に設立
1979年5月	本社工場を東大阪市菱江（現住所）に移転
1991年4月	株式会社オージックに商号変更
1996年12月	新社屋の完成、24時間365日恒温恒湿工場を実現
2006年4月	神奈川県横浜市都築区に横浜営業所を開設
2000年12月	ISO9000S（品質マネジメントシステム/国際規格）を取得
2001年12月	ISO9001（品質マネジメントシステム/国際規格/2000年度版）に移行
2003年6月	ISO14001（環境マネジメントシステム/国際規格）を取得
2007年1月	旋盤加工・MC加工を目的とした第6工場を本社工場に増設
2012年11月	韓国釜山市のHaewon ogic Co., Ltd. 株式会社に50%出資し資本参加
2013年6月	中国及び台湾において当社グループ製品の販売を目的として台湾台中市に独資企業江菱有限公司（略称：JLTA）を設立

2013年12月	精密機械加工・試作品製造のイセキテック株式会社の株式取得
2015年1月	JISQ9100（品質マネジメントシステム/航空宇宙・防衛産業）の取得
2016年7月	イセキテック株式会社を吸収合併し事業部門化
2016年9月	金属パイプ加工の株式会社セイエンの株式取得
2016年10月	大阪府東大阪市加納に加納工場を操業
2017年10月	精密部品加工の株式会社鍛冶屋の株式取得
2018年1月	AS9100（品質マネジメントシステム/航空宇宙・防衛産業）へ移行
2018年9月	精密微細加工の株式会社三翔精工の株式取得
2019年2月	株式会社鍛冶屋の株式を日本標準歯車販売株式会社（現オージックグループ株式会社）に譲渡
2019年3月	株式会社セイエンの株式を日本標準歯車販売株式会社（現オージックグループ株式会社）に譲渡
2019年6月	株式会社三翔精工の株式を日本標準歯車販売株式会社（現オージックグループ株式会社）に譲渡
2019年11月	大型ねじ等製造の美原精工株式会社の株式取得
2020年2月	難削材切削加工の株式会社フジタイトの株式取得
2020年5月	株式会社鍛冶屋が富田林市より堺市美原区の美原精工株式会社内へ移転
2020年6月	Haewon ogic Co., Ltd. 株式を一部売却し持分比率が 19.85%となる
2020年7月	株式会社オージックの管理部門を当社（オージックグループ株式会社）に移管し、事業部門は事業会社として事業を継続
2020年9月	美原精工株式会社及び株式会社フジタイトの株式をオージックグループ株式会社に現物配当
2020年12月	株式会社オージック イセキテック事業本部が堺市堺区より堺市美原区の美原精工株式会社内へ移転
2021年1月	株式会社オージック加納工場閉鎖及び本社工場への集約
2021年5月	株式会社鍛冶屋及び美原精工株式会社を吸収合併

当社の沿革を、グループ会社を含めて図示しますと以下ようになります。



3【事業の内容】

当社グループは、当社及び連結子会社7社から構成されております。連結子会社は、株式会社オージック（以下、「オージック」という）、江菱有限公司（台湾の現地法人、以下、「JLTA」という）、株式会社鍛冶屋（以下、「鍛冶屋」という）、株式会社セイエン（以下、「セイエン」という）、株式会社三翔精工（以下、「三翔精工」という）、美原精工株式会社（以下、「美原精工」という）、株式会社フジタイト（以下、「フジタイト」という）であり、主に、鋼材等の精密加工による歯車の製造、精密部品の試作品の開発及び製造、マシニングセンタ及びNC旋盤による金属部品の加工、内燃機関用の曲げ等の金属パイプ加工製造、通信機器等に使用される金属部品の精密微細加工、産業機械用大型ねじ等の製造等と台湾にある JLTA が販売代理店として中国及び台湾での販売代行を行っており、当社グループからの輸出に対して当社グループより販売手数料の支払いを行っています。

なお、2021年5月1日付で㈱オージックを吸収合併存続会社、㈱鍛冶屋及び美原精工㈱を吸収合併消滅会社とする吸収合併を行っております。

当社グループは、連結子会社それぞれが金属加工による製品やサービスを提供しており、金属部品加工事業単一の事業セグメントとしておりますが、それぞれの事業における特色は以下の通りとなっております。

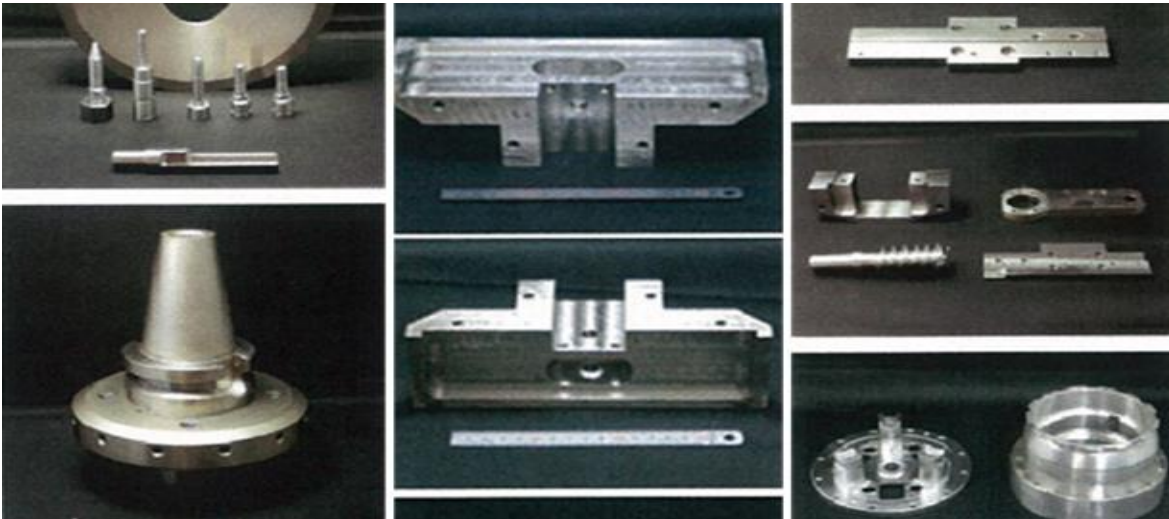
1. 精密歯車製造（オージック）及び精密部品加工事業（オージック・鍛冶屋）

オージックの歯車製品は、高強度と高精度が要求される工作機械部品、産業機械部品、農業機械部品、自動車、輸送機器及び船舶部品及び航空機部品等に使用される歯車の製造を、ほぼ100%お客様の設計に基づいて加工するフルオーダーメイドで行っております。オージックの強みとしては、高精度が要求される歯車のフルオーダーメイドの要望に対して、高水準の加工機械及び24時間365日恒温恒湿を実現する工場の製造環境により精密加工が可能となっていること、歯車検査の標準機となるクリンゲルンベルグ社製の検査機による品質保証体制が実現できていることや、さらにコストや納期面にも柔軟に対応できるところにあります。

また、鍛冶屋は精密部品の試作品の開発及び製造や特殊な素材を使用した部品や特殊な形状部品の多品種少量生産から組み立てまで対応しており、マシニング加工（注1）、NC旋盤加工（注2）、フライス加工（注3）、三次元部品加工（注4）などの豊富な精密部品加工技術を有し、新製品の試作品パーツ加工や特殊精密部品加工及び販売を行っています。



（オージック/精密歯車）

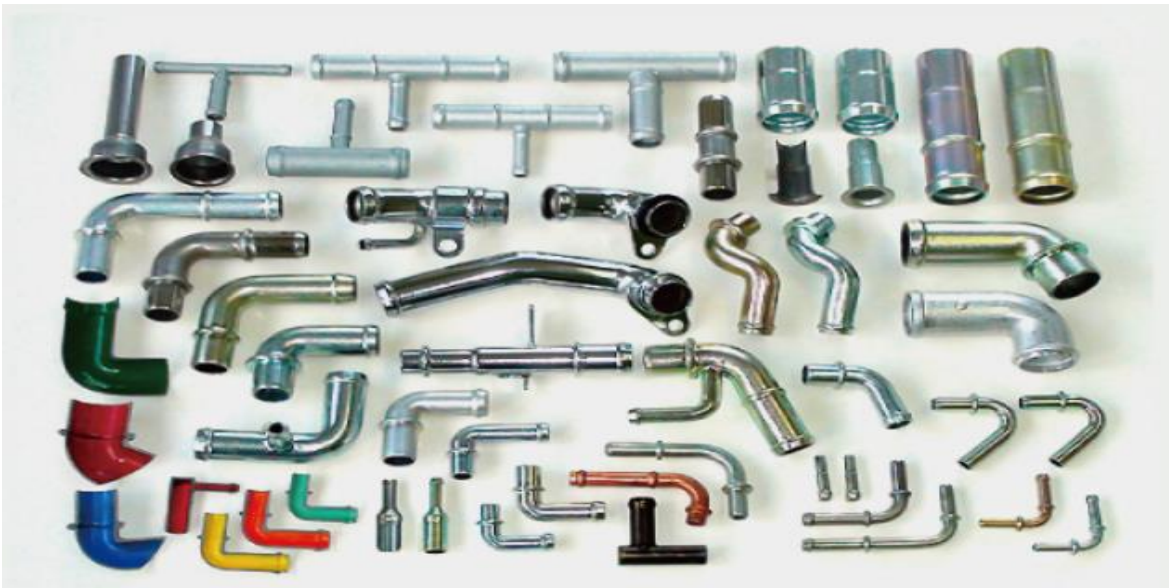


(鍛冶屋/精密金属部品加工)

- (注1) マシニング加工とは切削工具自動交換機能を備えた数値制御工作機械により切削加工すること。
- (注2) NC旋盤加工とは回転している材料を数値制御工作機械により切削加工すること。
- (注3) フライス加工とは切削工具を高速で回転させながら固定した材料を切削加工すること。
- (注4) 三次元部品加工とは加工対象物をX、Y、Z軸の3つの軸と回転軸のB(A)、C軸の計5軸を用い、より複雑な形状に切削加工すること。

2. 金属パイプ加工事業 (セイエン)

セイエンは、極小R曲げ加工(注5)やL型プロジェクション溶接加工(注6)に特殊な技術を有しており、自動車等の内燃機関等に使用されるパイプ等の加工及び販売を行っております。

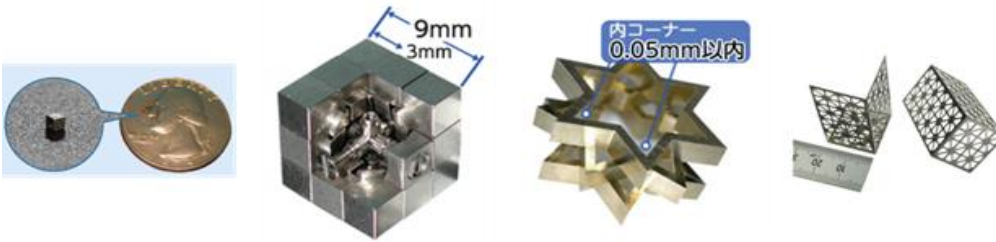


(セイエン/金属パイプ加工)

- (注5) 極小R曲げ加工とは直径1D以下のR曲げ加工(バンダー加工)のことを意味し、セイエンでは最小R曲げで0.7Dの加工ができます(Dとは、mm単位を表します)。
- (注6) L型プロジェクション溶接加工とはプロジェクション(突起)溶接工法(高電圧で溶かして付ける技法)であり、セイエンでは、それを応用し、パイプ同士を接合する技法を言います。

3. 精密微細加工事業（三翔精工）

三翔精工は、微細加工に優れた技術を有しており、光変調器・通信衛星部品・海底ケーブル接続ケース・携帯電話地上基地局アンテナ部品などの通信機器等に使用される部品の加工及び販売を行っております。



（三翔精工/微細加工例）

4. 大型ねじ等製造事業（美原精工）

美原精工は、直動送りねじの専門メーカーとして、工作機械、建設機械及び産業用機械等に使用されるボールねじ（注7）、送りねじ（注8）、大型ねじ（注9）や長尺台形ねじ（注10）等の製造及び販売を行っております。



（美原精工/大型ねじ等製造）

（注7） ボールねじとはモーター等の回転運動を直線運動に変換する機械要素で、主な用途として半導体製造装置・産業ロボット・工作機械の搬送や位置決めに使われます。ねじ軸・ナットのねじ溝に鋼球を介在させることによって高速移動や高い精度の繰り返し位置決めが可能で、NCと呼ばれる数値制御の高精度位置決めに使われます。

（注8） 送りねじとは台形ねじ・ボールねじの総称として用いる用語です（締め付けなどの一般的なねじと区別するために使用する言葉です）。

※台形ねじとは、ボールねじよりも古くからある回転運動を直線運動に変換する機械要素です。ボールねじと同様に締め付けというよりは工作機械の送りに使われます。汎用旋盤の親ねじは台形ねじが基本ですが、高速送りを要求される現在の工作機械においてはボールねじの採用が一般的です。ねじ形状の断面は名称通り台形をしており、面同士で軸とナットが接触するため高い負荷を受けることができるのでジャッキやプレスの送り機構にも使われます。

（注9）（注10）

大型ねじ・長尺台形ねじとは上述のボールねじや台形ねじの直径が大きく、全長寸法が長いものに使われる言葉です。より太く長いねじを要求する顧客は、大型の旋盤、大型の門型工作機械、高い負荷のプレス機のメーカーなどになります。

5. 難削材切削加工事業（フジタイト）

フジタイトは、ステンレス、チタンなどの難削材を主に取り扱っており、NC 自動複合旋盤による切削加工により、自動車部品メーカーを中心に、ハードディスク、光ファイバー、カメラ、OA 機器、電気温水器、各種センサー（温度、近接、超音波）、各種工作機械等の金属部品を製造及び販売を行っております。

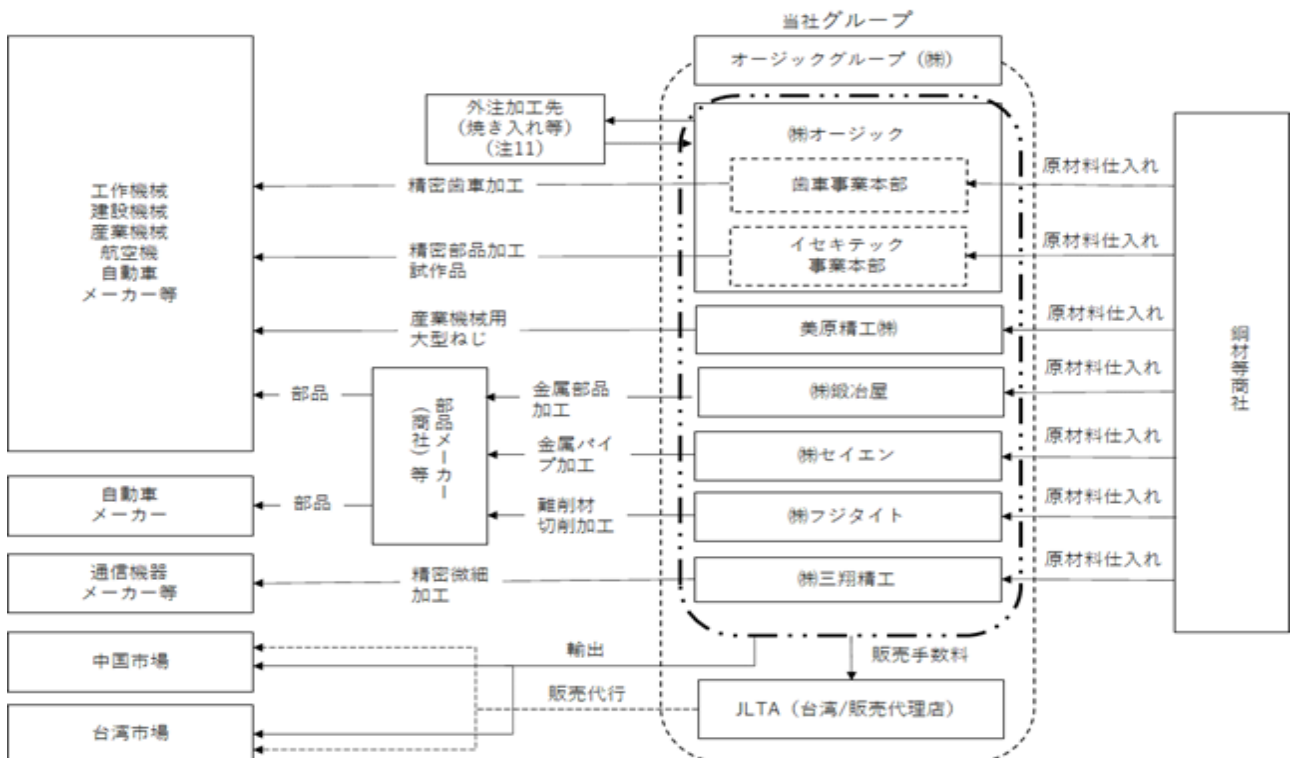


（フジタイト/難削材切削加工）

6. その他事業（JLTA）

中国本社及び台湾にて当社グループ製品の販売代行を行っており、売上高に応じて当社グループより販売手数料が支払われております。

以上の説明を事業系統図によって示すと次のようになります。なお、2021年5月1日付で㈱オージックを吸収合併存続会社、㈱鍛冶屋及び美原精工㈱を吸収合併消滅会社とする吸収合併を行っております。



（注 11） 焼き入れとは金属の強度を向上させるために所定の高温状態から急速に冷却する処理を行うことです。

4 【関係会社の状況】

名称	住所	資本金 (百万円)	主要な事業の内容	議決権の所有割合 又は被所有割合 (%)	関係内容
(連結子会社) 株式会社オージック (注1、4、5)	大阪府 東大阪市	65	精密歯車製造 精密部品加工	100.0	経営指導 役員の兼任 不動産の賃貸
JLTA (注1、2)	台湾 台中市	10 (百万NT\$)	中国・台湾に おける販売代行	100.0 (100.0)	経営指導 役員の兼任
株式会社鍛冶屋 (注1、3、5)	大阪府 堺市美原区	10	精密部品加工	100.0	経営指導 役員の兼任
株式会社セイエン (注1)	広島県 呉市	5	金属パイプ加工	100.0	経営指導 役員の兼任 不動産の賃貸
株式会社三翔精工 (注1、4)	大阪府 東大阪市	10	精密微細加工	100.0	経営指導 役員の兼任
美原精工株式会社 (注1、2、5)	大阪府 堺市美原区	40	大型ねじ等製造	100.0 (100.0)	経営指導 役員の兼任
株式会社フジタイト (注1、2)	徳島県 吉野川市	10	難削材切削加工	100.0 (100.0)	経営指導 役員の兼任

(注1) 特定子会社に該当しております。

(注2) 議決権の所有割合の()内は、間接所有割合で内数であります。

(注3) ㈱鍛冶屋は、2020年6月期末時点において32,314千円の債務超過となっております。

(注4) ㈱オージック及び㈱三翔精工は各売上高(連結会社相互間の内部売上高を除く)が連結売上高に占める割合が10%を超えているため、2020年6月期の主要な損益情報等を記載します。

(注5) 2021年5月1日付で㈱オージックを吸収合併存続会社、㈱鍛冶屋及び美原精工㈱を吸収合併消滅会社とする吸収合併を行っております。

(単位：千円)

会社	株式会社オージック 2020年6月期	株式会社三翔精工 2020年5月期
売上高	2,660,570	474,019
経常利益又は経常損失(△)	△224,347	76,321
当期純利益	22,422	60,370
純資産額	760,546	85,194
総資産額	3,695,242	824,489

5 【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

2021年4月30日現在

セグメントの名称	従業員数(人)
金属部品加工事業	343 (15)
合計	343 (15)

(注) 従業員数は就業人員であり、臨時雇用者数は、最近1年間の平均人員を()外数で記載しております。

(2) 発行者の状況

2021年4月30日現在

従業員数(人)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(千円)
25	45.3	8.0	6,506

(注) 1. 従業員数は就業人員であり、臨時雇用者数は、最近1年間の平均人員を()外数で記載しております。

2. 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。

3. 当社は、金属部品加工事業の単一セグメントであるため、セグメント別の記載を省略しております。

(3) 労働組合の状況

当社グループにおいて労働組合は結成されておりませんが、労使関係は円満に推移しております。

第3【事業の状況】

1【業績等の概要】

(1) 業績

当連結会計年度（自 2019年7月1日 至 2020年6月30日）

当連結会計年度におけるわが国経済は、米中貿易摩擦の影響等により世界経済が弱含むなか、さらにコロナウイルス感染症の影響により大幅に下押しされ厳しい状況が続いております。当社グループが属する金属加工業界におきましては、特に工作機械及び産業機械業界では世界経済が弱含むなか、2019年夏以降大きく需要が減退し、さらにコロナウイルス感染症の影響により設備投資は大きく冷え込み、日本工作機械工業会（日工会）が2020年5月14日に発表した4月の工作機械受注額（速報値）は前年同月比48.3%減の561億円となっております。

このような状況のもと、当社グループでは「マスタープラン2019」を掲げ、業容の拡大と事業分野の拡大を図ってまいりました。また、単一事業への専業リスク分散を目的として、ボールねじ等の大型ねじに強みを持つ美原精工株式会社及び自動車部品や電子機器部品の切削加工を行う株式会社フジタイトを100%出資の連結子会社としております。また、来るべき上場に向け、コーポレート・ガバナンスの強化や内部管理体制などの経営管理体制の整備を行ってきました。

以上の結果、連結会計年度の売上高は、3,739,851千円（前年同期比6.4%減）、営業損失は158,751千円（前年同期は31,085千円の営業利益）、経常損失は173,632千円（前年同期は19,851千円の経常損失）、親会社株主に帰属する当期純利益は257,182千円（前年同期比19.5%増）となりました。

当中間連結会計期間（自 2020年7月1日 至 2020年12月31日）

当中間連結会計期間における世界経済は、新型コロナウイルス感染症の拡大によるロックダウン（都市封鎖）が主に先進国で緩和され、経済活動が回復に向かい始めたものの、依然として厳しい状況となりました。

また、日本経済も、海外経済の回復から輸出を中心に回復傾向が見られましたが、欧米で再び新型コロナウイルス感染症が拡大する等、リスク要因が多く先行きは不透明であります。

当社グループにおきましては、新型コロナウイルスの感染拡大防止に十分留意しつつ、お客様への製品の供給活動に努めてきました。また、市場環境の変化に対応するために、経費削減、事業の効率化等の企業体質強化を図っております。

当社グループが属する金属加工業界におきまして、特に工作機械業界での工作機械受注動向については、2020年11月ごろから感染拡大の落ち着きに伴い、緩やかな回復に向かいつつあります。また、金属パイプ加工事業や精密微細加工事業において、自動車関連市場や産業用プリンター市場も回復傾向にあり、今後の売上拡大を見込んでおります。

以上のような背景のもと、当中間連結会計期間における売上高は1,631,572千円、営業損失は314,973千円、経常損失は252,569千円、親会社株主に帰属する中間純利益は45,551千円となりました。

なお当社は、当中間連結会計期間より中間連結財務諸表を作成しているため、前年同期との比較は行っておりません。

(2) キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度（自 2019年7月1日 至 2020年6月30日）

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果増加した資金は798,992千円（前年同期は609,011千円の増加）となりました。これは主に売上債権の減少額466,635千円、減価償却費563,951千円によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果増加した資金は31,225千円（前年同期は228,710千円の減少）となりました。これは主に有形固定資産の取得による支出390,587千円、連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出58,013千円、連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による収入149,963千円、保険積立金の解約による収入265,394千円によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果減少した資金は 398,090 千円（前年同期は 36,703 千円の減少）となりました。これは主に長期借入金の返済による支出 795,609 千円、社債の償還による支出 280,000 千円、リース債務の返済による支出 255,032 千円、長期借入による収入 972,650 千円によるものであります。

当中間連結会計期間（自 2020 年 7 月 1 日 至 2020 年 12 月 31 日）

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果増加した資金は 6,899 千円となりました。これは主に保険解約益が 356,827 千円あった一方で、売上債権の減少額 119,942 千円、減価償却費 303,375 千円等があったことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果増加した資金は 351,785 千円となりました。これは主に保険積立金の解約による収入 366,089 千円等によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果減少した資金は 208,602 千円となりました。これは主に長期借入金の返済による支出 342,423 千円、リース債務の返済による支出 146,690 千円、長期借入れによる収入 330,000 千円等によるものであります。

2 【生産、受注及び販売の状況】

(1) 生産実績

当連結会計年度における生産実績を示すと、次のとおりであります。

会社名	当連結会計年度 (自 2019年7月1日 至 2020年6月30日)	前年同期比 (%)
株オージック (千円)	2,042,621	△18.3
株セイエン (千円)	258,706	△5.8
株鍛冶屋 (千円)	211,780	△20.9
株三翔精工 (千円)	332,162	—
合計 (千円)	2,845,270	△6.5

(注) 上記金額には、消費税等は含まれておりません。

当中間連結会計期間における生産実績を示すと、次のとおりであります。

会社名	当中間連結会計期間 (自 2020年7月1日 至 2020年12月31日)	前年同期比 (%)
株オージック (千円)	912,762	—
株セイエン (千円)	146,922	—
株鍛冶屋 (千円)	98,790	—
株三翔精工 (千円)	187,444	—
美原精工(株) (千円)	149,678	—
株フジタイト (千円)	89,765	—
合計 (千円)	1,585,361	—

(注) 1. 上記金額には、消費税等は含まれておりません。

2. 当社は当中間連結会計期間より中間連結財務諸表を作成しているため、前年同期との比較分析は行っておりません。

(2) 受注状況

当連結会計年度における受注状況を示すと、次のとおりであります。

会社名	当連結会計年度 (自 2019年7月1日 至 2020年6月30日)	前年同期比 (%)
(株)オージック (千円)	2,191,960	△30.7
(株)セイエン (千円)	381,735	△2.5
(株)鍛冶屋 (千円)	195,897	△32.2
(株)三翔精工 (千円)	387,019	—
合計 (千円)	3,156,611	△17.9

(注) 上記金額には、消費税等は含まれておりません。

当中間連結会計期間における受注状況を会社ごとに示すと、次のとおりであります。

会社名	当中間連結会計期間 (自 2020年7月1日 至 2020年12月31日)	前年同期比 (%)
(株)オージック (千円)	941,430	—
(株)セイエン (千円)	218,168	—
(株)鍛冶屋 (千円)	77,271	—
(株)三翔精工 (千円)	162,337	—
美原精工(株) (千円)	104,910	—
(株)フジタイト (千円)	117,318	—
合計 (千円)	1,621,436	—

(注) 1. 上記金額には、消費税等は含まれておりません。

2. 当社は当中間連結会計期間より中間連結財務諸表を作成しているため、前年同期との比較分析は行っておりません。

(3) 販売実績

当連結会計年度における販売実績を示すと、次のとおりであります。

会社名	当連結会計年度 (自 2019年7月1日 至 2020年6月30日)	前年同期比 (%)
(株)オージック (千円)	2,660,570	△20.0
(株)セイエン (千円)	381,834	△2.4
(株)鍛冶屋 (千円)	223,426	△19.5
(株)三翔精工 (千円)	474,019	—
合計 (千円)	3,739,851	△6.4

(注) 1. 最近2連結会計年度の主な相手先別の販売実績及び当該販売実績の総販売実績に対する割合は次のとおりであります。

相手先	前連結会計年度 (自 2018年7月1日 至 2019年6月30日)		当連結会計年度 (自 2019年7月1日 至 2020年6月30日)	
	金額 (千円)	割合 (%)	金額 (千円)	割合 (%)
京セラ(株)	—	—	391,836	10.5
DMG森精機(株)	628,826	15.7	375,484	10.0

2. 上記金額には、消費税等は含まれておりません。

3. 京セラ(株)の増加は、新規連結によるものであります。

当中間連結会計期間における販売実績を示すと、次のとおりであります。

会社名	当中間連結会計期間 (自 2020年7月1日 至 2020年12月31日)	前年同期比 (%)
(株)オージック (千円)	878,089	—
(株)セイエン (千円)	222,511	—
(株)鍛冶屋 (千円)	82,650	—
(株)三翔精工 (千円)	205,249	—
美原精工(株) (千円)	131,633	—
(株)フジタイト (千円)	111,437	—
合計 (千円)	1,631,572	—

(注) 1. 主な相手先別の販売実績及び当該販売実績の総販売実績に対する割合は次のとおりであります。
2. 当社は当中間連結会計期間より中間連結財務諸表を作成しているため、前年同期との比較分析は行っておりません。

相手先	当中間連結会計期間 (自 2020年7月1日 至 2020年12月31日)	
	金額 (千円)	割合 (%)
DMG森精機(株)	183,387	11.2
京セラ(株)	177,877	10.9

3. 上記金額には、消費税等は含まれておりません。

3 【対処すべき課題】

当社グループが対処すべき主な課題は以下のとおりです。

(1) 事業の多角化

当社グループは金属加工業に属しており、製造業の設備投資などの景気変動に業績の影響を受けやすいため、事業の多角化を業容拡大の重要な課題と認識しております。そのため、新規市場の開拓や新製品の開発に積極的に取り組むこと等により単一セグメント特有のリスクを回避してまいります。

(2) 組織力の強化

当社グループは、これまでそれぞれのグループ各社が特色のある製造技術などにより製造部門が成長をけん引してまいりました。今後のさらなる成長の基盤づくりとしまして、なお一層の技術力の強化と営業力の強化を経営の課題として取り組んでまいります。

(3) 人材の育成

当社グループは、人材を最も重要な経営資源と考えております。そのため、優秀な人材の採用と育成のため様々な教育の機会を従業員に提供するとともに、共に働くことに喜びを感じる職場づくりや福利厚生制度を整えてまいります。

(4) 事業基盤の強化

事業基盤を強化する為、原材料の調達、内製力の向上、在庫管理、人員配置、品質管理体制、営業活動、内部管理体制等、あらゆるコストについて生産性向上に取り組み、経営の効率化を進めることで、将来にわたる成長力、収益力のある企業体質を目指してまいります。

4【事業等のリスク】

以下に、当社グループの事業展開及びその他のリスク要因と考えられる主な事項を記載しております。当社グループは、これらのリスク発生の可能性を認識した上で、発生の回避及び発生した場合の適切な対応に努める方針ですが、当社株式に関する投資判断は、以下の事項及び本項以外の記載事項を慎重に検討した上で行われる必要があると考えております。

また、文中の将来事象に関する事項は、本発行者情報公表日現在において当社グループが判断したものであり、実際の結果とは異なる可能性があります。

(1) 製造業における設備投資需要の変動に関するリスク

当社グループの主要な売上は、工作機械及び産業機械メーカーへの精密歯車や金属加工部品等の加工及び販売に依存しております。工作機械及び産業機械業界は、製造業の設備投資の動向に左右される傾向があります。そのため、何らかの要因により各種製造業の設備投資需要が落ち込んだ場合には、当社グループの経営成績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

(2) 原材料の価格高騰に関するリスク

当社グループの主要な製品の原材料となる鉄鋼材は、国内の専門商社等から調達を行っています。鉄鋼材等の原材料市況の高騰や為替相場が大幅に変動した場合、仕入先への価格交渉や製品への価格転嫁を行っていく方針ではありますが、大幅な高騰が長期にわたる場合には、当社グループの経営成績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

(3) 自然災害に関するリスク

当社グループは、火災や台風といった災害に備え、建物・機械設備・製品等の資産に対し損害補償を行う「企業財産総合保険」に加入しております。しかしながら、地震や台風等の自然災害や火災等の事故災害が発生した場合、当社グループの拠点設備が大きな被害を受け、操業が一部中断、停止し、生産及び出荷が遅延する可能性があります。また、被害を受けた設備等の修復のため、多額の費用が発生する可能性があります。当該災害が当社グループの経営成績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。さらに、地震や台風等の自然災害により電力供給が長期間にわたりストップした場合には、工場の操業が停止し生産及び出荷が遅延する可能性があります。当社グループの経営成績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

(4) 固定資産の減損に関するリスク

当社グループは、建物や製造設備等の有形固定資産を保有しております。固定資産の連結貸借対照表上の計上額については、当該資産から得られる将来キャッシュ・フローの見積もりに基づく残存価額の回収可能性の評価を実施しております。しかしながら、競争環境等の影響等により事業収益性が低下し、当該固定資産が十分なキャッシュ・フローを創出できないと判断される場合、減損の認識が必要となり、当社グループの経営成績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

(5) 繰延税金資産の認識

当社グループは繰延税金資産について、将来課税所得に対して利用できる可能性が高いものに限り認識しています。認識された繰延税金資産については、期末日に見直しており、税務便益が実現する可能性が高くなかった部分を減額することにより、法人所得税費用が増加する可能性があります。なお、将来課税所得の見積もりには、新型コロナウイルス感染症の影響に関しまして、当社グループでは、一般社団法人 日本工作機械工業会、一般社団法人 日本産業機械工業会並びに一般社団法人 自動車工業会の公表データ等から、同業界における受注動向は2020年下期より緩やかな回復傾向にあり、当社グループ業績への波及は当社グループ下半期より緩やかに発現するとの仮定が含まれています。その一方で今後の広がり方や収束時期等について統一的な見解がないため、事後的な結果との間に乖離が生じる可能性があります。

(6) M&Aに関するリスク

当社グループは、事業領域の拡大や成長の加速を目的とした M&A を事業戦略の選択肢の一つとして考えております。また、M&A の実施にあたり、対象企業の財務内容や契約関係等について公認会計士及び弁護士等の外部専門家の助言を含めたデューデリジェンスを実施すること等により、各種リスクの低減に努めることを前提としております。しかしながら、M&A による事業展開においては、予期しない事業リスク等の発生により業績が悪化し、のれんの償却や減損等が発生し、当社グループの経営成績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

(7) 感染症に関するリスク

当社グループは、新型コロナウイルス等の感染症予防のため、手洗い及び消毒等の徹底、さらにはシフト制による工場勤務や事務系従業員についてはテレワークの実施等により、一部の従業員の感染時においても工場内や事務所内の消毒後は、直ちに事業を再開もしくは継続できる体制を構築しておりますが、一時的に従業員の減員による生産低下が発生し、当社グループの経営成績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

(8) 安全保障貿易管理

当社グループが製造又は加工した製品が組み込まれた他社製品は、輸出貿易管理令の規制対象品目に分類されています。今後、国際情勢の変化により規制が強化されることになれば、当社グループの経営成績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

(9) 競争に関するリスク

当社グループが属する金属加工業界においては、高額な加工機械や検査機器等の多額の先行投資や加工における技術力が必要とされるため国内における新規参入は少ないものの中国や台湾などにおいて技術力の向上に伴い国際的な競争が激化する可能性があります。このような海外メーカーの参入により競争が激化すれば、当社グループの経営成績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

(10) 環境問題に関するリスク

当社グループは、事業活動上において様々な環境関連の法令及び規制の適用を受けております。(株)オージックではいち早く ISO14001 (環境 ISO) を取得し、積極的に環境保全活動に努めており、また、他の当社グループ各社におきましてもこれらの法規制を遵守し活動を行っております。今後、環境関連の法規制や環境問題に関する社会的な要求がより厳しくなることで法令遵守にかかる追加コストが生じたり、事業活動に制約を受ける可能性があります。従いまして、今後の環境関連の法規制の動向によっては当社グループの経営成績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

(11) コンプライアンスに関するリスク

当社グループは、オージックフィロソフィを制定し、当社グループの取締役、執行役員及び従業員が業務の遂行にあたって、各種法令や倫理基準並びに社内行動規範等の遵守の定着を図っております。しかし、万一、それら法令や規範等から逸脱する行為が発生し、コンプライアンス上の問題に直面した場合には、監督官庁等からの処分、訴訟の提起や社会的信用の失墜等により、当社グループの経営成績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

(12) 情報セキュリティに関するリスク

当社グループは、社内の機密情報以外にも顧客よりお預かりしている加工図面等の機密性の高いデータをシステム上に保管しております。このため、情報セキュリティ上の問題により、これらの機密データの漏洩、毀損また滅失等のリスクを低減すべく、適切な情報管理を目的とした情報セキュリティ方針や情報セキュリティ管理規程を制定し、運用いたしております。しかし、これらの努力にもかかわらず、当社グループの IT システム及びネットワーク上に問題が発生した場合、情報流出に伴う損害賠償責任を負ったり、知的財産権を侵害されたりする可能性があります。そのような事態が発生した場合、当社グループの経営成績及び財

政状態に影響を及ぼす可能性があります。

(13) 有利子負債への依存に関するリスク

当社グループは、事業拡大を進める中で新規設備投資には多額の資金を要しており、これら投資資金の大部分を金融機関からの借入に依存してきました。当連結会計年度末における当社グループの総資産に占める有利子負債の割合は58.2%となっております。今後の金利変動によっては支払利息の負担が増加し経営成績や財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

また、これら当社グループの借入金に係る一部契約において財務制限条項が付されております。この条項に抵触する事態が発生した場合、当該借入金について期限の利益を喪失し、一括返済の義務を負った場合、また、その他金融機関の融資姿勢の変化等により、事業拡大の資金調達が困難になる場合には経営成績や財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

(14) 製造物責任リスク

当社グループの製品には、製造物責任のリスクが内在していることから、リスクの顕在化に備えて製造物責任を担保する保険に加入しております。しかしながら、製品の欠陥に起因して大規模な製品回収や損害賠償につながるリスクが現実化し、これを保険により補填できない事態が生じた場合には、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

当社グループでは、不良品そのものの流出を防止するため製造工程及び製品出荷前における各種検査を実施しております。また、製造工程内や出荷前検査で発見された品質不良に対しまして、原因の追究と改善の徹底といった品質管理体制を構築し、品質の向上に努めております。

(15) J-Adviser との契約について

当社グループは、(株)東京証券取引所が運営を行っております証券市場 TOKYO PRO Market に上場予定であります。当社では、フィリップ証券(株)を担当 J-Adviser に指定することについての取締役会決議に基づき、2019年3月27日にフィリップ証券(株)との間で、担当 J-Adviser 契約（以下、「当該契約」という。）を締結しております。当該契約は、TOKYO PRO Market における当社株式の新規上場及び上場維持の前提となる契約であり、当該契約を解除し、かつ他の担当 J-Adviser を確保できない場合、当社株式は TOKYO PRO Market から上場廃止となります。当該契約における契約解除に関する条項及び契約解除に係る事前催告に関する事項は以下の通りです。

なお、本発行者情報の公表日現在において、当該契約の解除条項に該当する事象は生じておりません。

<J-Adviser 契約解除に関する条項>

当社（以下「甲」という。）が次のいずれかに該当する場合には、フィリップ証券(株)（以下「乙」という。）は、J-Adviser 契約（以下「本契約」という。）を即日無催告解除することができる。

① 債務超過

甲がその事業年度の末日に債務超過の状態である場合において、1年以内に債務超過の状態から脱却しえなかったとき、すなわち債務超過の状態となった事業年度の末日の翌日から起算して1年を経過する日（当該1年を経過する日が甲の事業年度の末日に当たらないときは、当該1年を経過する日の後、最初に到来する事業年度の末日）までの期間（以下この項において「猶予期間」という。）において債務超過の状態から脱却しえなかった場合。但し、甲が法律の規定に基づく再生手続き若しくは更生手続き又は私的整理に関するガイドライン研究会による「私的整理に関するガイドライン」に基づく整理を行うことにより、当該1年を経過した日から起算して1年以内に債務超過の状態から脱却することを計画している場合（乙が適当と認める場合に限る。）には、2年以内（審査対象事業年度の末日の翌日から起算して2年を経過する日（猶予期間の最終日の翌日から起算して1年を経過する日が甲の事業年度の末日に当たらないときは、当該1年を経過する日の後、最初に到来する事業年度の末日）までの期間内）に債務超過の状態から脱却しえなかったとき。

なお、乙が適当と認める場合に適合するかどうかの審査は、猶予期間の最終日の属する連結会計年度（甲が連結財務諸表を作成すべき会社でない場合には事業年度）に係る決算の内容を開示するまでの間におい

て、再建計画（本号但し書きに定める1年以内に債務超過の状態でなくなるための計画を含む。）を公表している甲を対象とし、甲が提出する当該再建計画並びに次のa及び、bに定める書類に基づき行う。

- a 次の(a)又は(b)の場合の区分に従い、当該(a)又は(b)に規定する書面
 - (a) 法律の規定に基づく再生手続き又は更生手続きを行う場合
当該再建計画が、再生計画又は更生計画として裁判所の認可を得ているものであることを証する書面
 - (b) 私的整理に関するガイドライン研究会による「私的整理に関するガイドライン」に基づく整理を行う場合
当該再建計画が、当該ガイドラインにしたがって成立したものであることについて債権者が記載した書面
- b 本号但し書きに定める1年以内に債務超過の状態でなくなるための計画の前提となった重要事項等が、公認会計士等により検討されたものであることについて当該公認会計士等が記載した書面

②銀行取引の停止

甲が発行した手形等が不渡りとなり銀行取引が停止された場合又は停止されることが確実となった旨の報告を書面で受けた場合

③破産手続、再生手続又は更生手続

甲が法律の規定に基づく会社破産手続、再生手続若しくは更生手続を必要とするに至った場合（甲が法律に規定する破産手続、再生手続若しくは更生手続の原因があることにより、破産手続、再生手続又は更生手続を必要と判断した場合）又はこれに準ずる状態になった場合、なお、これに準ずる状態になった場合とは、当該aからcまでに掲げる場合その他甲が法律の規定に基づく会社の破産手続、再生手続、又は更生手続を必要とするに至った場合に準ずる状態になったと乙が認めた場合などをいうものとし、当該aからcまでに定める日に本号前段に該当するものとして取り扱う。

- a 甲が債務超過又は支払不能に陥り又は陥るおそれがあるときなどで再建を目的としない法律に基づかない整理を行う場合
甲から当該整理を行うことについての書面による報告を受けた日
- b 甲が、債務超過又は支払不能に陥り又は陥るおそれがあることなどにより事業活動の継続について困難である旨又は断念する旨を取締役会等において決議又は決定した場合であって、事業の全部若しくは大部分の譲渡又は解散について株主総会又は普通出資者総会に付議することを取締役会の決議についての書面による報告を受けた日（事業の大部分の譲渡の場合には、当該事業の譲渡が事業の大部分の譲渡であると乙が認めた日）
- c 甲が、財政状態の改善のために、債権者による債務の免除又は第三者による債務引受若しくは弁済に関する合意を当該債権者又は第三者と行った場合（当該債務の免除の額又は債務の引受若しくは弁済の額が直前事業年度の末日における債務の総額の100分の10に相当する額以上である場合に限る。）
甲から当該合意を行ったことについての書面による報告を受けた日

④前号に該当することとなった場合においても、以下に定める再建計画の開示を行った場合には、原則として本契約の解除は行わないものとする。

再建計画とは次のaないしcの全てに該当するものをいう。

- a 次の(a)又は(b)に定める場合に従い、当該(a)又は(b)に定める事項に該当すること。
 - (a) 甲が法律の規定に基づく再生手続又は更生手続を必要とするに至った場合
当該再建計画が、再生計画又は更生計画として裁判所の認可を得られる見込みがあるものであること。
 - (b) 甲が前号cに規定する合意を行った場合
当該再建計画が、前号cに規定する債権者又は第三者の合意を得ているものであること。
- b 当該再建計画に次の(a)及び(b)に掲げる事項が記載されていること。
 - (a) 当該上場有価証券の全部を消却するものでないこと。
 - (b) 前aの(a)に規定する見込みがある旨及びその理由又は同(b)に規定する合意がなされていること及びそれを証する内容

- c 当該再建計画に上場廃止の原因となる事項が記載されているなど公益又は投資者保護の観点から適当でないと認められるものでないこと。

⑤事業活動の停止

甲が事業活動を停止した場合（甲及びその連結子会社の事業活動が停止されたと乙が認めた場合をいう）又はこれに準ずる状態になった場合。

なお、これに準ずる状態になった場合とは、次の a から c までに掲げる場合その他甲が事業活動を停止した場合に準ずる状態になったと乙が認めた場合をいうものとして、当該 a から c までに掲げる日に同号に該当するものとして取り扱う。

- a 甲が、合併により解散する場合のうち、合併に際して甲の株主に対してその株券等に代わる財産の全部又は一部として次の (a) 又は (b) に該当する株券等の交付する場合は、原則として、合併がその効力を生ずる日の3日前（休業日を除外する。）の日
 - (a) TOKYO PRO Market の上場株券等
 - (b) 上場株券等が、その発行者である甲の合併による解散により上場廃止となる場合 当該合併に係る新設会社若しくは存続会社又は存続会社の親会社（当該会社が発行者である株券等を当該合併に際して交付する場合に限る。）が上場申請を行い、速やかに上場される見込みのある株券等
- b 甲が、前 a に規定する事由以外の事由により解散する場合は、甲から当該合併に関する株主総会（普通出資者総会を含む。）の決議についての書面による報告を受けた日（当該合併について株主総会の決議による承認を要しない場合には、取締役会の決議（委員会設置会社にあつては、執行役の決定を含む。）についての書面による報告を受けた日）
- c 甲が、前 a 及び前 b に規定する事由以外の事由により解散する場合（③b の規定の適用を受ける場合を除く。）は、甲から当該解散の原因となる事由が発生した旨の書面による報告を受けた日

⑥不適当な合併等

甲が非上場会社の吸収合併又はこれに類する行為（i 非上場会社を完全子会社とする株式交換、ii 非上場子会社を子会社化する株式交付、iii 会社分割による非上場会社からの事業の承継、iv 非上場会社からの事業の譲受け、v 会社分割による他の者への事業の承継、vi 他の者への事業の譲渡、vii 非上場会社との業務提携、viii 第三者割当による株式若しくは優先出資の割当て、ix その他非上場会社の吸収合併又はこれら i から viii までと同等の効果をもたらすと認められる行為）を行った場合で、当該上場会社が実質的な存続会社でないと乙が認めた場合。

⑦支配株主との取引の健全性の毀損

第三者割当てにより支配株主が異動した場合（当該割当てにより支配株主が異動した場合及び当該割当てにより交付された募集株式等の転換又は行使により支配株主が異動する見込みがある場合）において、支配株主との取引に関する健全性が著しく棄損されていると乙が認めるとき。

⑧有価証券報告書又は四半期報告書ならびに発行者情報等の提出遅延

甲が提出の義務を有する有価証券報告書又は四半期報告書ならびに発行者情報等につき、法令及び上場規程等に定める期間内に提出しなかった場合で、乙がその遅延理由が適切でないと判断した場合。

⑨虚偽記載又は不適正意見等

次の a 又は b に該当する場合

- a 甲が開示書類等に虚偽記載を行い、かつ、その影響が重大であると乙が認める場合
- b 甲の財務諸表等に添付される監査報告書等において、公認会計士等によって監査意見について「不適正意見」又は「意見の表明をしない」旨（天災地変等、甲の責めに帰すべからざる事由によるものである場合を除く。）が記載され、かつ、その影響が重大であると乙が認める場合。

⑩法令違反及び上場規程違反等

甲が重大な法令違反又は上場規程に関する重大な違反を行った場合。

⑪株式事務代行機関への委託

甲が株式事務を（株）東京証券取引所の承諾する株式事務代行機関に委託しないこととなった場合又は委託しないこととなることが確実となった場合。

⑫株式の譲渡制限

甲が当該銘柄に係る株式の譲渡につき制限を行うこととした場合。

⑬完全子会社化

甲が株式交換又は株式移転により他の会社の完全子会社となる場合。

⑭指定振替機関における取扱

甲が指定振替機関の振替業における取扱いの対象とならないこととなった場合。

⑮株主の権利の不当な制限

株主の権利内容及びその行使が不当に制限されているとして、甲が次の a から g までのいずれかに掲げる行為を行っているとして乙が認めた場合であつ株主及び投資者の利益を侵害するおそれが大きいと乙が認める場合、その他株主の権利内容及びその行使が不当に制限されていると乙が認めた場合。

- a 買収者以外の株主であることを行使又は割当ての条件とする新株予約権を株主割当て等の形で発行する買収防衛策（以下「ライツプラン」という。）のうち、行使価額が株式の時価より著しく低い新株予約権を導入時点の株主等に対し割り当てておくものの導入（実質的に買収防衛策の発動の時点の株主に割り当てるために、導入時点において暫定的に特定の者に割り当てておく場合を除く。）
- b ライツプランのうち、株主総会で取締役の過半数の交代が決議された場合においても、なお廃止又は不発動とすることができないものの導入。
- c 拒否権付種類株式のうち、取締役の過半数の選解任その他の重要な事項について種類株主総会の決議を要する旨の定めがなされたものの発行にかかる決議又は決定（持株会社である甲の主要な事業を行っている子会社が拒否権付種類株式又は取締役選任権付種類株式を甲以外の者を割当先として発行する場合において、当該種類株式の発行が甲に対する買収の実現を困難にする方策であると乙が認めるときは、甲が重要な事項について種類株主総会の決議を要する旨の定めがなされた拒否権付種類株式を発行するものとして取り扱う。）
- d 上場株券等について、株主総会において議決権を行使することができる事項のうち取締役の過半数の選解任その他の重要な事項について制限のある種類の変更に係る決議又は決定。
- e 上場株券等より議決権の多い株式（取締役の選解任その他の重要な事項について株主総会において一個の議決権を行使することができる数の株式に係る剰余金の配当請求権その他の経済的利益を受ける権利の価額等が上場株券より低い株式をいう。）の発行に係る決議又は決定。
- f 議決権の比率が 300% を超える第三者割当に係る決議又は決定。ただし、株主及び投資者の利益を侵害するおそれが少ないと乙が認める場合は、この限りでない。
- g 株主総会における議決権を失う株主が生じることとなる株式併合その他同等の効果をもたらす行為に係る決議又は決定。

⑯全部取得

甲が当該銘柄に係る株式の全部を取得する場合

⑰反社会的勢力の関与

甲が反社会的勢力の関与を受けている事実が判明した場合において、その実態が Tokyo PRO Market に対する株主及び投資者の信頼を著しく棄損したと乙が認めるとき。

⑱その他

前各号のほか、公益又は投資者保護のため、乙もしくは(株)東京証券取引所が当該銘柄の上場廃止を適当と認めた場合

<J-Adviser 契約解除に係る事前催告に関する事項>

1. いずれの当事者が、本契約に基づく義務の履行を怠り、又は、その他本契約違反を犯した場合、相手方は相当の期間（特段の事情がない限り 1 か月とする。）を定めてその違反の是正又は義務の履行を書面で催告し、その催告期間内にその違反の是正又は義務の履行がなされなかったときは本契約を解除することができる。
2. 前項の定めにかかわらず、甲及び乙は、合意により本契約期間中いつでも本契約を解除することができる。また、いずれかの当事者から相手方に対し、1 か月前に書面で通知することにより本契約を解除することができる。

3. 契約解除する場合、特段の事情のない限り乙は、あらかじめ本契約を解除する旨を(株)東京証券取引所に通知しなければならない。

5 【経営上の重要な契約等】

1. 株式交換

当社は2020年5月20日開催の取締役会決議に基づき、(株)オージックとの間で、企業経営の透明性、資金調達の柔軟性の観点より、TOKYO PRO Market への上場準備に取り組むにあたってグループ再編を目的として、2020年5月20日に株式交換契約を締結しました。

株式交換の概要は、以下のとおりです。

(1) 株式交換の内容

当社を完全親会社とし、(株)オージックを完全子会社とする株式交換

(2) 株式交換の日（効力発生日）

2020年6月30日

(3) 株式交換の方法

株式交換日現在の(株)オージックの株主名簿に記載又は記録された株主に対して、当社は普通株式130,000株を新たに発行し、割当交付します。

(4) 株式交換比率

	当社	(株)オージック
株式交換比率	1	1

(5) 株式交換比率の算定根拠

株式交換比率の算定にあたって、当社は(株)NE Xコンサルティングを財務アドバイザーに任命しました。

(株)NE Xコンサルティングは、当社及び(株)オージックについて、それぞれ非公開会社の株価算定原則に従い、純資産価額を基準にした法人税法上の評価額をもって株式交換比率を算定しました。

(6) 株式交換完全親会社となる会社の概要

資本金 10百万円（2020年6月30日）

事業内容 オージックグループの統括機能

2. 経営管理部門の移管

2020年6月30日の取締役会決議により、(株)オージックの経営管理部門を当社に移管いたしました。

3. 現物配当

当社は、(株)オージックが保有する美原精工(株)及び(株)フジタイトの株式を2020年9月29日付けで現物配当により取得し、当社の直接出資子会社といたしました。これはコーポレート・ガバナンスの強化を図ることを目的として、グループ体制の見直しを行い持株会社化を円滑に進める方針の一環として行ったものです。

6 【研究開発活動】

当連結会計年度における研究開発費用は、2,717千円であります。支出に要した研究開発費は、経済産業省のサポートインダストリー事業の一環として、「5軸マシニングセンタによる航空機用高機能ストレートベベルギヤの特殊波面調整加工の開発」をテーマに、設備保守料、加工のための治具や工具類及び溶液費等に支出しました。

当中間連結会計期間において、該当事項はありません。

7 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中における将来に関する事項は、本発行情報公表日現在において当社が判断したものであります。

(1) 重要な会計方針及び見積り

当社グループの連結財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められている会計基準に基づき作成されております。この連結財務諸表の作成にあたって、経営者による会計方針の選択・適用、資産・負債及び収益・費用の報告金額及び開示に影響を与える見積りを必要としております。経営者は、これらの見積りについて、過去の実績等を勘案し合理的に判断しておりますが、実際の結果は、見積りによる不確実性のため、これらの見積りと異なる場合があります。

(2) 財政状態の分析

当連結会計年度末（2020年6月30日）

(流動資産)

当連結会計年度末における流動資産の残高は2,812,299千円で、前連結会計年度末に比べ225,957千円増加しております。現金及び預金の増加439,433千円、受取手形及び売掛金の減少208,898千円が主な変動要因であります。

(固定資産)

当連結会計年度末における固定資産の残高は4,099,471千円で、前連結会計年度末に比べ715,023千円増加しております。土地の増加511,367千円、建物及び構築物の増加227,987千円が主な変動要因であります。

(流動負債)

当連結会計年度末における流動負債の残高は1,906,004千円で、前連結会計年度末に比べ225,579千円増加しております。未払金の増加137,020千円、一年以内返済長期借入金の増加127,236千円が主な変動要因であります。

(固定負債)

当連結会計年度末における固定負債の残高は3,977,787千円で、前連結会計年度末に比べ412,424千円増加しております。長期借入金の増加461,873千円が主な変動要因であります。

(純資産)

当連結会計年度末における純資産の残高は1,027,979千円で、前連結会計年度末に比べ302,976千円増加しております。当連結会計年度の親会社株主に帰属する当期純利益の計上257,182千円による利益剰余金の増加が変動要因であります。

当中間連結会計期間末（2020年12月31日）

(流動資産)

当中間連結会計期間末における流動資産の残高は2,821,474千円で、前連結会計年度末に比べ9,175千円増加しております。現金及び預金の増加151,597千円、電子記録債権の増加5,925千円、受取手形及び売掛金の減少125,768千円、未収入金の減少23,724千円等が主な変動要因であります。

(固定資産)

当中間連結会計期間末における固定資産の残高は3,898,202千円で、前連結会計年度末に比べ201,269千円減少しております。繰延税金資産の増加19,601千円、機械装置及び運搬具の減少98,186千円、リース資産の減少105,816千円、のれんの減少13,984千円等が主な変動要因であります。

(流動負債)

当中間連結会計期間末における流動負債の残高は1,887,698千円で、前連結会計年度末に比べ18,306千円減少しております。1年以内返済長期借入金の増加89,002千円、未払費用の減少69,141千円、短期借入金の減少37,500千円等が主な変動要因であります。

(固定負債)

当中間連結会計期間末における固定負債の残高は3,766,086千円で、前連結会計年度末に比べ187,368千円減少しております。長期リース債務の減少123,241千円、長期借入金の減少101,425千円、退職給付に係る負債の増加25,056千円等が主な変動要因であります。

(純資産)

当中間連結会計期間末における純資産の残高は1,065,893千円で、前連結会計年度末に比べ37,914千円増加しております。親会社株主に帰属する中間純利益の計上45,551千円による利益剰余金の増加が変動要因であります。

(3) 経営成績の分析

「1【業績等の概要】(1)業績」に記載のとおりであります。

(4) キャッシュ・フローの分析

「1【業績等の概要】(2)キャッシュ・フローの状況」に記載のとおりであります。

(5) 運転資本

上場予定日(2021年6月30日)から12カ月間の運転資本は、自己資金及び借入による資金調達が可能であることから十分であると認識しております。

(6) 経営者の問題意識と今後の方針について

「3【対処すべき課題】」に記載しております。

第4【設備の状況】

1【設備投資等の概要】

当中間連結会計期間において、当社グループでは92,280千円の設備投資を行っております。主な内訳は、建物及び構築物50,647千円、機械装置及び運搬具9,255千円、リース資産25,333千円、その他資産7,045千円となっております。詳細は次の通りです。なお、当中間連結会計期間において、機械装置及び運搬具の売却（固定資産売却益3,139千円、固定資産売却損1,262千円）があります。

(1) 提出会社

会社名	事業所名 (所在地)	設備の内容	投資金額（千円）				合計
			建物及び 構築物	機械装置及 び運搬具	リース 資産	その他	
オージックグループ(株)	本社 (大阪府東大阪市)	管理用設備	—	—	5,736	—	5,736

(2) 国内子会社

会社名	事業所名 (所在地)	設備の内容	投資金額（千円）				合計
			建物及び 構築物	機械装置及 び運搬具	リース 資産	その他	
(株)三翔精工	鹿児島工場 (鹿児島県霧島市)	工場建物 生産用設備	782	645	405	—	1,832
美原精工(株)	本社工場 (大阪府堺市美原区)	工場建物 生産用設備	49,865	170	—	1,746	51,781
(株)オージック	本社工場 (大阪府東大阪市)	生産用設備	—	1,991	—	4,949	6,940
(株)セイエン	本社工場 (広島県呉市)	生産用設備	—	5,050	19,192	350	24,592
(株)フジタイト	本社工場 (徳島県吉野川市)	営業用設備	—	1,399	—	—	1,399

(注) 1. 上記金額には消費税等は含まれておりません。

2【主要な設備の状況】

(1) 提出会社

2020年12月31日現在

事業所名 (所在地)	設備の内容	帳簿価額 (千円)						従業員 数 (人)
		建物及び 構築物	機械装置及 び運搬具	土地 (面積㎡)	リース 資産	その他	合計	
本社及び(株)オー ジック歯車事業本部 本社工場 (大阪府東大阪市)	本社機能 生産用設備	—	—	121,600 (889.26)	5,258	108	126,966	25
(株)オージック歯車 事業本部加納工場 (大阪府東大阪市)	生産用設備	138,773	—	120,573 (1,601.63)	—	—	259,346	—
(株)オージックイセ キテック事業本部 (大阪府堺市堺区)	生産用設備	1,796	—	50,893 (424.11)	—	—	52,689	—
(株)セイエン (広島県呉市)	生産用設備 寮	44,457	—	39,311 (2,193.75)	—	—	83,768	—
保養所 (兵庫県芦屋市)	福利厚生施 設	8,476	—	448 (4.93)	—	—	8,924	—

(注) 1. 上記金額には消費税等は含まれておりません。

(注) 2. その他の資産は、工具、器具及び備品であります。

(2) 国内子会社

2020年12月31日現在

事業所名 (所在地)	設備の内容	帳簿価額 (千円)						従業員 数 (人)
		建物及び 構築物	機械装置及 び運搬具	土地 (面積㎡)	リース 資産	その他	合計	
株オージック本社 工場 (大阪府東大阪 市)	本社機能 生産用設備	118,649	418,671	47,900 (2,409.09)	520,930	10,357 (注2)	1,116,507	89
株オージック加納 工場 (大阪府東大阪 市)	生産用設備	1,677	17,811	—	9,831	1,033 (注2)	30,352	20
株オージックイセ キテック事業本部 (大阪府堺市堺 区)	生産用設備	13,078	19,126	120,721 (614.67)	81,739	8,458 (注2)	243,122	41
株オージック横浜 営業所 (神奈川県横浜 市都筑区)	営業機能	524	—	—	—	48 (注2)	572	2
株オージック保養 所 (兵庫県神戸市 北区)	福利厚生施 設	5,176	—	167 (敷地権)	—	—	5,343	—
美原精工(株)本社 工場 (大阪府堺市美 原区)	本社機能 生産用設備	102,838	12,187	497,060 (8,386)	—	12,554 (注2)	624,639	43
株鍛冶屋本社工 場 (大阪府堺市美 原区)	本社機能 生産用設備	48,069	32,598	—	17,912	790 (注2)	99,369	20
株セイエン本社 工場 (広島県呉市)	本社機能 生産用設備	—	29,125	—	18,723	3,743 (注2)	51,592	36
株フジタイト本 社工場 (徳島県吉野川 市)	本社機能 生産用設備	47,009	22,933	21,352 (2,925)	280	3,979 (注2)	95,553	27
株三翔精工鹿 児島工場 (鹿児島県霧島 市)	管理機能 生産用設備	245,554	84,549	53,782 (8,402)	159,957	2,362 (注2)	546,204	47

(注) 1. 上記金額には消費税等は含まれておりません。

(注) 2. その他の資産は、工具、器具及び備品並びに建設仮勘定であります。

(3) 在外子会社

2020年12月31日現在

事業所名 (所在地)	設備の内容	帳簿価額 (千円)			従業員数 (人)
		建物及び構築物	機械装置及び運搬具	合計	
JLTA (台湾台中市)	管理機能 営業機能	262	621	883	3

(注) 上記金額には消費税等は含まれておりません。

(4) 主要な賃借設備として以下のものがあります。

事業所名 (所在地)	設備の内容	年間賃借料 (千円)
(株)オージック歯車事業本部 (大阪府東大阪市)	建物(工場) 駐車場	17,098
(株)オージック横浜営業所 (神奈川県横浜市都筑区)	建物(事務所) 駐車場	786
(株)オージックイセキテック事業本部 (大阪府堺市堺区)	建物(工場) 駐車場及び倉庫	2,558

(注) 上記金額には消費税等は含まれておりません。

3【設備の新設、除却等の計画】

(1) 重要な設備の新設等

会社名	事業所名 (所在地)	設備の内容	投資予定額		資金調達 方法	着手および 完了予定日		完成後の 増加能力
			総額 (千円)	既支払額 (千円)		着手	完了	
㈱オージック	イセキテック事業本部(大阪府堺市美原区)	工場建物 生産用設備	67,110	67,110	自己資金	2020年 11月	2021年 1月	— (注2)
㈱オージック	歯車事業本部 (大阪府東大阪市)	生産用設備	45,000	—	自己資金 借入金	2021年 1月	2021年 9月	2.2%増加
美原精工(株) (大阪府堺市美原区)	美原精工(株) (大阪府堺市美原区)	工場建物 生産用設備	203,072	8,840	自己資金	2020年 11月	2021年 4月	6.8%増加
㈱フジタイト (徳島県吉野川市)	㈱フジタイト (徳島県吉野川市)	生産用設備	29,500	—	自己資金 借入金	2021年 5月	2021年 8月	8%増加
㈱三翔精工 (鹿児島県霧島市)	㈱三翔精工 (鹿児島県霧島市)	生産用設備 検査機器 空調設備	25,025	—	自己資金 借入金	2021年 1月	2021年 5月	10%増加

(注) 1. 上記金額には消費税等は含まれておりません。

(注) 2. 2021年1月以降事業所は大阪府堺市美原区に移しております。

(2) 重要な設備の除却等

会社名	事業所名 (所在地)	設備の内容	帳簿価額 (千円)	除却等の 予定年月
㈱オージック	イセキテック事業本部 (大阪府堺市堺区)	工場建物 生産用設備	2,267	2021年2月
㈱オージック	歯車事業本部 (大阪府東大阪市)	生産用設備	2,477	2021年1月

(注) 上記金額には消費税等は含まれておりません。

(3) 重要な設備の売却等

事業所名 (所在地)	事業所名 (所在地)	設備の内容	帳簿価額 (千円)					
			建物及び 構築物	機械装 置及び 運搬具	リース 資産	土地 (面積㎡)	その他	合計
オージックグループ(株)	加納工場(大阪府東大阪市)	賃貸用設備	138,773	—	—	171,467 (2,026)	—	310,240
㈱オージック	イセキテック事業本部(大阪府堺市堺区)	生産用設備	10,283	—	—	120,722 (615)	—	131,005

(注) 上記金額には消費税等は含まれておりません。

第5【発行者の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

記名・無記名の別、額面・無額面の別及び種類	発行可能株式総数(株)	未発行株式数(株)	連結会計年度末現在発行数(株) (2020年6月30日)	公表日現在発行数(株) (2021年5月27日)	上場金融商品取引所名又は登録認可金融商品取引業協会名	内容
普通株式	5,200,000	3,899,990	130,001	1,300,010	非上場	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であり、単元株式数は100株であります。
計	5,200,000	3,899,990	130,001	1,300,010	—	—

- (注) 1. 2020年5月28日開催の臨時株主総会決議により、2020年6月30日付で発行可能株式総数の増加に伴う定款の変更が行われ、発行可能株式総数は280,000株増加し、520,000株となっております。
2. 2020年11月11日開催の取締役会決議により、2020年12月10日付で普通株式1株を10株とする株式分割を実施し、株式数は1,170,009株増加し、1,300,010株となっております。これに伴い発行可能株式総数に係る定款の変更を行い、発行可能株式総数は4,680,000株増加し、5,200,000株となっております。
3. 2020年11月20日開催の臨時株主総会決議により、普通株式100株を1単元とする単元株制度を導入する定款の変更を行っております。

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【MSCB等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総数増減数(株)	発行済株式総数残高(株)	資本金増減額(千円)	資本金残高(千円)	資本準備金増減額(千円)	資本準備金残高(千円)
2020年5月15日 (注) 1	△19,999	1	—	10,000	—	—
2020年6月30日 (注) 2	130,000	130,001	—	10,000	—	—
2020年12月10日 (注) 3	1,170,009	1,300,010	—	10,000	—	—

- (注) 1. 株式併合
2020年5月15日付で、当社普通株式20,000株を1株とする株式併合を実施しております。
2. 株式交換
2020年6月30日付で当社と株式会社オージックの株式交換を行い、発行株式が130,000株増加しております。
3. 株式分割
2020年12月10日付で普通株式1株を10株に分割しております。これにより株式数は1,170,009株増加し、1,300,010株となっております。

(6) 【所有者別状況】

2021年4月30日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数100株)								単元未満株式の状況(株)
	政府及び地方公共団体	金融機関	金融商品取引業者	その他の法人	外国法人等		個人その他	計	
					個人以外	個人			
株主数(人)	—	—	—	1	—	—	5	6	—
所有株式数(単元)	—	—	—	5,200	—	—	7,800	13,000	10
所有株式数の割合(%)	—	—	—	40	—	—	60	100	—

(7) 【大株主の状況】

「第三部【株式公開情報】 第3【株主の状況】」に記載のとおりです。

(8) 【議決権の状況】

① 【発行済株式】

2021年4月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	—	—	—
完全議決権株式(その他)	普通株式 1,300,000	13,000	権利内容に何ら限定のない、当社における標準となる株式であり、単元株式数は100株であります。
単元未満株式	10	—	—
発行済株式総数	1,300,010	—	—
総株主の議決権	—	13,000	—

② 【自己株式等】

該当事項はありません。

(9) 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】

該当事項はありません。

(1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2) 【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

該当事項はありません。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

該当事項はありません。

3 【配当政策】

当社グループでは株主に対する利益還元を経営上の重要政策として認識し、業績の状況、取り巻く環境及び中長期における財務体質の展望を勘案し、継続的かつ安定的に実施することを基本方針としております。

当社グループは、期末配当を行う場合、期末配当の年1回の剰余金の配当を行うことを基本方針としております。この剰余金の配当の決定機関は、株主総会であります。今後の配当につきましては、財政状態、経営成績及び事業計画を勘案し、内部留保とのバランスを図りながら、その実施を検討する所存であります。

4 【株価の推移】

当社株式は非上場であるため、該当事項はありません。

5 【役員 の 状 況】

男性 4 名 女性 1 名 (役員のうち女性の比率-%)

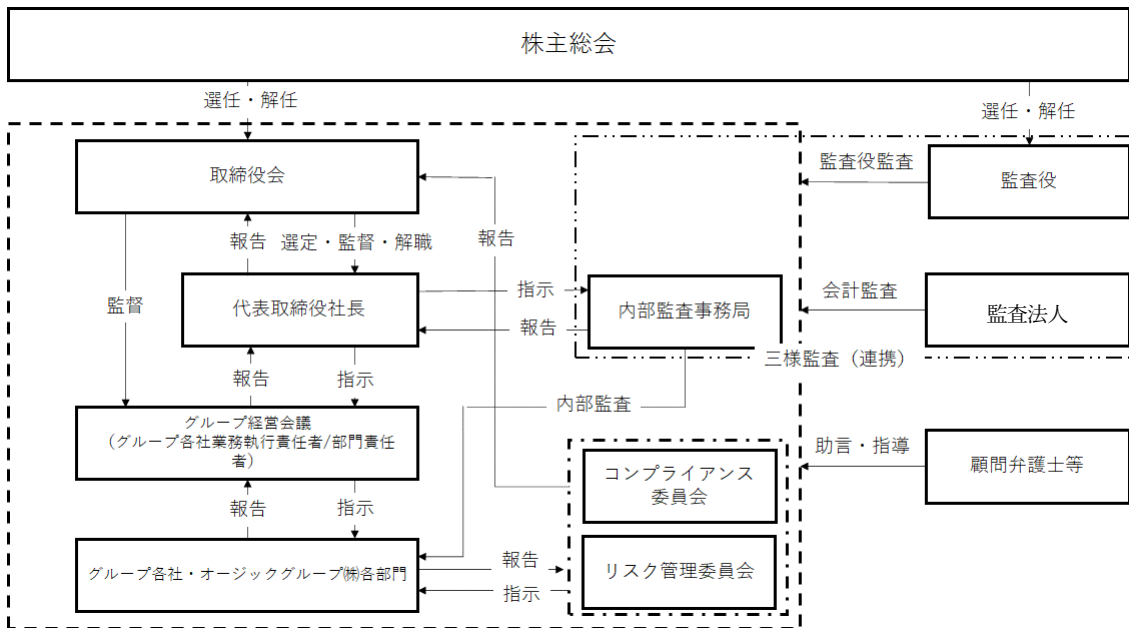
役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	報酬	所有株式数(株)
代表取締役	社長	田中 文彦	1972 年 1 月 17 日生	1995 年 2 月 (株)オージック入社 2000 年 4 月 同社取締役製造部長就任 2002 年 4 月 同社専務取締役就任 2006 年 3 月 同社代表取締役社長就任 2010 年 5 月 JLTA 理事長就任(現任) 2011 年 5 月 日本標準歯車販売(株)(現オージックグループ(株))代表取締役社長就任(現任) 2013 年 12 月 イセキテック(株)(現(株)オージック イセキテック事業本部)代表取締役社長就任 (有)セイエン(現(株)セイエン) 2016 年 9 月 代表取締役社長就任 (株)鍛冶屋 代表取締役社長就任(現任) 2017 年 10 月 (株)三翔精工 代表取締役社長就任 2018 年 10 月 美原精工(株) 代表取締役社長就任(現任) 2019 年 11 月 (株)フジタイト 代表取締役会長就任(現任) 2020 年 2 月 (株)オージック 代表取締役会長就任(現任) 2020 年 7 月 (株)オージック 代表取締役会長就任(現任)	(注 1)	(注 3)	629,110
取締役	経営管理本部長	大井 実	1956 年 3 月 3 日生	1978 年 4 月 沼間司法書士事務所入社 1979 年 3 月 吹田貿易(株)入社 1990 年 6 月 (株)フェリシモ入社 2004 年 6 月 同社取締役経営企画部長就任 同社取締役コーポレートスタイルデザイン本部長就任 2007 年 3 月 同社取締役コーポレートスタイルデザイン本部長兼総務部長就任 2011 年 4 月 同社取締役コーポレートスタイルデザイン本部長兼総務部長就任 2013 年 3 月 同社取締役戦略サポート部長兼シニア事業部長就任 2014 年 3 月 同社取締役経営企画	(注 1)	(注 3)	—

				2015年1月	室長就任 ㈱幸和製作所入社 管理本部長就任			
				2015年3月	同社取締役管理本部長就任			
				2017年6月	同社取締役管理本部長兼経営企画部長			
				2019年4月	同社取締役管理本部長兼経営企画部長兼総務部長			
				2019年11月	㈱オージック入社			
				2020年3月	同社経営管理本部長就任			
				2020年7月	当社取締役経営管理本部長就任(現任)			
取締役	経営管理本部 コーポレート アカウント ティング部長	金田 善雄	1962年4月28日生	1986年4月	信用組合大阪興銀入組	(注1)	(注3)	—
				1989年7月	吉田税理士事務所入所			
				1992年12月	小泊会計事務所入所			
				2010年10月	㈱オージック入社			
				2012年4月	同社総務部長			
				2013年4月	同社経営管理部長			
				2018年4月	同社経営管理室長			
				2020年3月	同社経営管理本部コーポレートアカウントティング部長			
				2020年7月	当社取締役コーポレートアカウントティング部長(現任)			
監査役		櫛 正文	1946年4月23日生	1965年4月	住友銀行(現三井住友銀行) 入行	(注2)	(注3)	—
				1998年11月	㈱オージック 出向			
				1999年4月	同社取締役 就任			
				2006年4月	同社常務取締役 就任			
				2011年5月	同社監査役 就任			
				2020年6月	同社監査役辞任			
				2020年7月	当社監査役就任(現任)			
計								629,110

- (注) 1. 取締役の任期は、2020年11月20日開催の臨時株主総会の時から、選任後1年以内に終了する事業年度のうち、最終のものに関する定時株主総会の終結の時までであります。
2. 監査役の任期は、2020年11月20日開催の臨時株主総会の時から、選任後4年以内に終了する事業年度のうち、最終のものに関する定時株主総会の終結の時までであります。
3. 2020年6月期における役員報酬の総額は33,510千円を支給しております。

6 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1) 【コーポレート・ガバナンスの状況】



① コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当社グループは、「全従業員の物心両面の幸福を追求すると同時に、お客様と社会の進歩発展に貢献すること」を経営理念としており、この不変の理念を具現化するため「オージックフィロソフィ」を定め、当社グループのすべての役職員の行動指針としております。当社グループのコーポレート・ガバナンスは、この経営理念とフィロソフィをベースとして立脚するものと考えております。

また、当社グループを取り巻く経営環境が急激に変化するなか、当社グループが安定的に成長・発展するためには、経営の効率性、健全性、そして透明性を高めていくことが必要不可欠であると考えております。そのため、コーポレート・ガバナンスを適切に運用するための体制を構築し、さらには、その実効性を高めるため、社会環境の変化や法令等の施行に対応し、適宜、必要な見直しを行うとともに、ステークホルダーの皆様に対し、適切に経営情報の開示を行ってまいります。

②会社の機関の内容

イ. 取締役会

当社の取締役会は、3名の取締役（うち社外取締役0名）で構成されております。

取締役会は、法令、定款及び株主総会決議に基づき、決裁権限規程、取締役会規程その他の当社及び当社グループ諸規程等の会社運営の基礎となる諸基準を整備し、取締役の職務執行の適正性及び効率性を確保しております。なお、定例取締役会が毎月1回、その他必要に応じて臨時取締役会が開催され、経営に関する重要事項を決定しております。

当社グループでは、ホールディングス会社であるオージックグループ株式会社（申請会社）のみが取締役会設置会社となっており、その他のグループ会社は取締役会非設置会社となっております。オージックグループ株式会社の取締役会には、各グループ会社の経営責任者がオブザーバーとして参加し、グループ各社の経営状況について報告を行っており、この取締役会はオージックグループ全体の監督機能を有しております。

オージックグループ株式会社の取締役は業務執行状況を取締役会に報告するものとしており、これをもとに、取締役会は取締役の職務執行を監督しております。

ロ. 監査役

当社は監査役設置会社制度を採用しており、監査役1名で構成されております。

監査役は、監査役規程に基づき、取締役の業務執行状況を適正に監査しております。また、監査役は取締役会に出席し、取締役の職務の執行状況を監視するとともに、適宜必要な意見を述べております。

ハ. 会計監査

当社は、ひかり監査法人と監査契約を締結し、独立した立場から「特定上場有価証券に関する有価証券上場規程の特例」第110条第5項の規定に基づき監査を受けております。なお、2020年6月期において監査を執行した公認会計士は岩永憲秀氏、三王知行氏の2名であり、いずれも継続監査年数は7年以内であります。また、当該監査業務にかかる補助者は公認会計士7名その他1名であります。

なお、当社グループと監査に従事する公認会計士及びその補助者との間には特別の利害関係はありません。

③ 内部統制システムの整備の状況

当社グループは、職務権限規程の遵守により、業務を合理的に分担することで、特定の組織並びに特定の担当者に業務や権限が集中することを回避し、内部牽制機能が適切に働くよう努めております。

④ 内部監査及び監査役の状況

当社グループの内部監査は、当社の経営管理本部内に内部監査事務局を設置し、各グループ会社すべての業務を監査する体制をとっております。つぎに当社の経営管理本部の監査は、経営管理本部以外の部門が実施しており、相互に牽制するクロス監査体制をとっております。各グループ会社及び各部の監査結果並びに改善点につきましては、内部監査事務局より、当社の代表取締役社長に対し報告書を提出し、必要に応じて改善指示書を代表取締役社長名にて発行し、当該グループ会社及び部門に対して改善の指示・命令を行う体制をとっております。

⑤ リスク管理体制の整備の状況

当社グループのリスク管理体制は、当社グループを横断するリスク管理組織としてリスク管理委員会を設置しております。委員会は、当社代表取締役社長を委員長として、当社取締役、執行役員、コーポレートマネジメント部長及び各グループ会社の経営責任者を委員として構成されています。事務局として経営管理本部が委員会の運営を行っております。また、当社グループは企業経営及び日常の業務に関して、必要に応じて弁護士等の複数の専門家から経営判断上の参考とするためのアドバイスを受ける体制をとっております。

⑥ 社外取締役及び社外監査役の状況

当社では、社外取締役及び社外監査役の選任を行っておりません。当社グループでは、ホールディングス制度を採用しており、業務を執行する事業会社（各グループ会社）とその経営の監督を行うオージックグループ株式会社（持株会社）により構成されております。各グループ会社は取締役会非設置会社となっており、各グループ会社における重要事項に関する意思決定や業務執行に関する監督はオージックグループ株式会社の取締役会に行っております。そのため、当社グループにおける業務執行機能と経営監督機能は、明確に分離しております。また、社外取締役の選任にあたっては当社グループの中長期的な企業価値の向上に資する経営判断や助言等を行っていただくなどの資質が必要とされます。そのため、当社グループの属する業界や当社グループの事業に関する知見を有しているなどの適任者の選任に時間を要していることや、新型コロナウイルス感染症等の影響により、当面は役員報酬等を抑制していくことが必要との判断などから、現時点では選任を行っておりませんが、今後、当社グループの経営課題として検討して参ります。

⑦ 役員報酬の内容

役員区分	報酬等の総額 (千円)	報酬等の種類別の総額 (千円)			対象となる 役員の員数 (人)
		基本報酬	賞与	ストック オプション	
取締役 (社外取締役を除く)	25,265	25,265	—	—	3
監査役 (社外監査役を除く)	4,562	4,562	—	—	1

⑧ 取締役及び監査役の定数

当社の取締役は5名以内、監査役は3名以内とする旨を定款で定めております。

⑨取締役の選任決議要件

当社は、取締役の選任決議について、議決権を行使することができる株主の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨及び累積投票によらないものとする旨を定款で定めております。

⑩株主総会の特別決議要件

当社は、株主総会の円滑な運営を行うため、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議要件について、議決権を行使することができる株主の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨を定款に定めております。

⑪自己の株式の取得

当社は、会社法第165条第2項の規定により、取締役会の決議をもって、自己の株式を取得することができる旨を定款に定めております。これは、経営環境の変化に対応した機動的な資本政策の遂行を可能とするため、市場取引等により自己の株式を取得することを目的とするものであります。

⑫中間配当に関する事項

該当事項はありません。

⑬取締役及び監査役の実任免除

当社は、職務の遂行にあたり期待される役割を十分に発揮できる環境を整備するため、会社法第426条第1項の規定により、任務を怠った取締役（取締役であったものを含む。）及び監査役（監査役であったものを含む。）の損害賠償責任を法令の限度において、取締役会の決議によって免除できる旨を定款に定めております。

⑭社外取締役及び社外監査役との責任限定契約の内容の概要

該当事項はありません。

⑮株式の保有状況

該当事項はありません。

(2) 【監査報酬の内容等】

① 【監査法人に対する報酬の内容】

区分	最近連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬（千円）	非監査業務に基づく報酬（千円）
発行者	12,000	—
連結子会社	—	—
計	12,000	—

② 【その他重要な報酬の内容】

（最近連結会計年度）

該当事項はありません。

③ 【監査法人の発行者に対する非監査業務の内容】

（最近連結会計年度）

該当事項はありません。

④ 【監査報酬の決定方針】

当社グループの事業規模等を勘案して監査報酬額を決定しております。

第6【経理の状況】

1 連結財務諸表の作成方法について

- (1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号)に基づいて作成しております。
- (2) 当社の連結財務諸表は、株式会社東京証券取引所の「特定上場有価証券に関する有価証券上場規程の特例」第110条第6項で認められた会計基準のうち、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しております。

2 中間連結財務諸表の作成について

- (1) 当社の中間連結財務諸表は、「中間連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成11年大蔵省令第24号)に基づいて作成しております。
- (2) 当社の中間連結財務諸表については、株式会社東京証券取引所の「特定上場有価証券に関する有価証券上場規程の特例」第110条第6項で認められた会計基準のうち、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しております。

3 監査証明について

- (1) 当社は、株式会社東京証券取引所の「特定上場有価証券に関する有価証券上場規程の特例」第110条第5項の規定に基づき、当連結会計年度(2019年7月1日から2020年6月30日まで)の連結財務諸表について、ひかり監査法人により監査を受けております。
- (2) 当社は、株式会社東京証券取引所の「特定上場有価証券に関する有価証券上場規程の特例」第110条第5項の規定に基づき、当中間連結会計期間(2020年7月1日から2020年12月31日まで)の中間連結財務諸表について、ひかり監査法人により中間監査を受けております。

【連結財務諸表等】

(1) 【連結財務諸表】

① 【連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年6月30日)		当連結会計年度 (2020年6月30日)	
資産の部				
流動資産				
現金及び預金		794,336	※3	1,233,769
受取手形及び売掛金	※5	948,545		739,647
電子記録債権		303,308		220,831
製品		103,665		149,119
仕掛品		250,417		209,696
原材料		24,299		99,294
その他		161,769		159,940
流動資産合計		2,586,341		2,812,299
固定資産				
有形固定資産				
建物及び構築物(純額)	※1、3	528,680	※1、3	756,667
機械装置及び運搬具(純額)	※1、4	801,043	※1、4	735,814
土地	※3	562,444	※3	1,073,812
リース資産(純額)	※1	919,608	※1	920,449
その他(純額)	※1	26,480	※1、4	29,943
有形固定資産合計		2,838,256		3,516,688
無形固定資産				
のれん		199,998		236,413
ソフトウェア		55,914		53,273
無形固定資産合計		255,913		289,687
投資その他の資産				
投資有価証券	※2	65,332		67,949
繰延税金資産		73,250		100,405
その他		151,696		124,741
投資その他の資産合計		290,278		293,096
固定資産合計		3,384,448		4,099,471
資産合計		5,970,790		6,911,771

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年6月30日)		当連結会計年度 (2020年6月30日)	
負債の部				
流動負債				
買掛金		175,911		108,832
短期借入金	※3、6	133,350	※3、6	151,350
1年以内返済予定長期借入金	※3	527,434	※3、7	654,670
リース債務		247,530		286,534
未払金		230,062		367,083
未払法人税等		6,785		67,335
未払消費税等		27,122		48,786
賞与引当金		58,820		50,765
その他		273,408		170,646
流動負債合計		1,680,425		1,906,004
固定負債				
社債		280,000		—
長期借入金	※3	1,733,132	※3、7	2,195,006
リース債務		772,752		732,402
繰延税金負債		96,988		155,390
役員退職慰労引当金		421,653		298,179
退職給付に係る負債		243,416		394,422
その他		17,418		202,386
固定負債合計		3,565,362		3,977,787
負債合計		5,245,787		5,883,791
純資産の部				
株主資本				
資本金		10,000		10,000
資本剰余金		—		760,765
利益剰余金		△26,165		256,005
株主資本合計		△16,165		1,026,771
その他包括利益累計額				
為替換算調整勘定		2,340		1,208
その他包括利益累計額合計		2,340		1,208
非支配株主持分		738,828		—
純資産合計		725,002		1,027,979
負債純資産合計		5,970,790		6,911,771

【中間連結貸借対照表】

(単位：千円)

当中間連結会計期間 (2020年12月31日)		
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	※ 2	1,385,366
受取手形及び売掛金	※ 4	613,879
電子記録債権		226,757
製品		136,908
仕掛品		188,623
原材料		91,913
その他		179,244
貸倒引当金		△1,218
流動資産合計		2,821,474
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	※ 1、2	776,346
機械装置及び運搬具（純額）	※ 1、3	637,628
土地	※ 2	1,073,812
リース資産（純額）	※ 1	814,632
その他（純額）	※ 1、3	43,436
有形固定資産合計		3,345,856
無形固定資産		
のれん		222,429
ソフトウェア		52,481
無形固定資産合計		274,910
投資その他の資産		
投資有価証券		63,048
繰延税金資産		120,006
その他		94,381
投資その他の資産合計		277,435
固定資産合計		3,898,202
資産合計		6,719,677

(単位：千円)

当中間連結会計期間
(2020年12月31日)

負債の部		
流動負債		
買掛金		117,586
短期借入金	※2、5	113,850
1年以内返済予定長期借入金	※2、6	743,672
リース債務		290,507
未払金		298,653
未払法人税等		52,034
未払消費税等		39,831
賞与引当金		56,690
その他		174,871
流動負債合計		1,887,698
固定負債		
長期借入金	※2、6	2,093,581
リース債務		609,160
繰延税金負債		133,427
役員退職慰労引当金		301,589
退職給付に係る負債		419,479
その他		208,848
固定負債合計		3,766,086
負債合計		5,653,784
純資産の部		
株主資本		
資本金		10,000
資本剰余金		760,765
利益剰余金		293,757
株主資本合計		1,064,522
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定		1,370
その他の包括利益累計額合計		1,370
純資産合計		1,065,893
負債純資産合計		6,719,677

② 【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】

【連結損益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2018年7月1日 至 2019年6月30日)		当連結会計年度 (自 2019年7月1日 至 2020年6月30日)	
売上高		3,993,708		3,739,851
売上原価		3,108,676		2,924,303
売上総利益		885,031		815,547
販売費及び一般管理費	※1	853,946	※1、2	974,299
営業利益又は営業損失(△)		31,085		△158,751
営業外収益				
受取利息		78		136
受取配当金		6		6
受取家賃		6,672		—
持分法による投資利益		—		2,111
助成金収入		—		16,748
その他		24,342		18,273
営業外収益合計		31,099		37,276
営業外費用				
支払利息		38,537		40,602
持分法による投資損失		16,659		—
その他		26,839		11,554
営業外費用合計		82,036		52,156
経常損失(△)		△19,851		△173,632
特別利益				
関係会社株式売却益		26,744		17,707
固定資産売却益	※3	6,110	※3	39,939
国庫補助金		46,552		33,599
負ののれん発生益		—		199,977
保険解約返戻金		—		259,137
その他		736		—
特別利益合計		80,143		550,361
特別損失				
関係会社株式売却損		2,858		—
固定資産売却損	※4	23,988	※4	2,311
固定資産除却損	※5	11,722	※5	1,199
固定資産圧縮損		10,000		—
減損損失		—	※6	55,000
固定資産移設費用		—		6,500
特別損失合計		48,569		65,010
税金等調整前当期純利益		11,722		311,719
法人税、住民税及び事業税		21,851		76,019
法人税等調整額		△88,985		△45,100
法人税等合計		△67,133		30,919
当期純利益		78,855		280,799
非支配株主に帰属する当期純利益又は非支配株主に帰属する当期純損失(△)		△136,336		23,617
親会社株主に帰属する当期純利益		215,192		257,182

【連結包括利益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2018年7月1日 至 2019年6月30日)	当連結会計年度 (自 2019年7月1日 至 2020年6月30日)
当期純利益	78,855	280,799
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	△8,886	△1,131
その他の包括利益合計	※1 △8,886	※1 △1,131
包括利益	69,968	279,668
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	206,305	256,050
非支配株主に係る包括利益	△136,336	23,617

【中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書】

【中間連結損益計算書】

(単位：千円)

	当中間連結会計期間 (自 2020年7月1日 至 2020年12月31日)	
売上高		1,631,572
売上原価		1,528,081
売上総利益		103,490
販売費及び一般管理費	※1	418,463
営業損失(△)		△314,973
営業外収益		
受取利息		11
受取配当金		707
為替差益		1,683
助成金収入		58,574
その他		13,332
営業外収益合計		74,309
営業外費用		
支払利息		8,127
その他		3,778
営業外費用合計		11,905
経常損失(△)		△252,569
特別利益		
保険解約返戻金		356,827
固定資産売却益	※2	3,139
特別利益合計		359,967
特別損失		
固定資産移設費用		26,500
たな卸資産廃棄損		11,477
固定資産売却損	※3	1,262
特別損失合計		39,241
税金等調整前中間純利益		68,157
法人税、住民税及び事業税		64,169
法人税等調整額		△41,564
法人税等合計		22,605
中間純利益		45,551
非支配株主に帰属する中間純利益		—
親会社株主に帰属する中間純利益		45,551

【中間連結包括利益計算書】

(単位：千円)

	当中間連結会計期間 (自 2020年7月1日 至 2020年12月31日)
中間純利益	45,551
その他の包括利益	
為替換算調整勘定	162
その他の包括利益合計	162
中間包括利益	45,714
(内訳)	
親会社株主に係る中間包括利益	45,714
非支配株主に係る中間包括利益	—

③【連結株主資本等変動計算書】

前連結会計年度（自 2018年7月1日 至 2019年6月30日）

（単位：千円）

	株主資本			
	資本金	資本 剰余金	利益 剰余金	株主資本 合計
当期首残高	10,000	—	△222,560	△212,560
当期変動額				
親会社株主に帰属する当期 純利益	—	—	215,192	215,192
非支配株主との取引に係る 親会社の持分変動	—	—	△18,797	△18,797
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）	—	—	—	—
当期変動額合計	—	—	196,395	196,395
当期末残高	10,000	—	△26,165	△16,165

	その他の包括利益累計額		非支配株主 持分	純資産 合計
	為替換算 調整勘定	その他の包括 利益累計額合計		
当期首残高	11,227	11,227	846,001	644,668
当期変動額				
親会社株主に帰属する当期 純利益	—	—	—	215,192
非支配株主との取引に係る 親会社の持分変動	—	—	—	△18,797
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）	△8,886	△8,886	△107,173	△116,060
当期変動額合計	△8,886	△8,886	△107,173	80,334
当期末残高	2,340	2,340	738,828	725,002

当連結会計年度（自 2019年7月1日 至 2020年6月30日）

（単位：千円）

	株主資本			
	資本金	資本 剰余金	利益 剰余金	株主資本 合計
当期首残高	10,000	—	△26,165	△16,165
当期変動額				
親会社株主に帰属する当 期純利益	—	—	257,182	257,182
非支配株主との取引に係 る親会社の持分変動	—	760,765	—	760,765
持分法の適用範囲の変更	—	—	24,988	24,988
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）	—	—	—	—
当期変動額合計	—	760,765	282,171	1,042,936
当期末残高	10,000	760,765	256,005	1,026,771

	その他の包括利益累計額		非支配株主 持分	純資産 合計
	為替換算 調整勘定	その他の包括利益 累計額合計		
当期首残高	2,340	2,340	738,828	725,002
当期変動額				
親会社株主に帰属する当 期純利益	—	—	—	257,182
非支配株主との取引に係 る親会社の持分変動	—	—	—	760,765
持分法の適用範囲の変更	—	—	—	24,988
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）	△1,131	△1,131	△738,828	△739,960
当期変動額合計	△1,131	△1,131	△738,828	302,976
当期末残高	1,208	1,208	—	1,027,979

【中間連結株主資本等変動計算書】

当中間連結会計期間（自 2020年7月1日 至 2020年12月31日）

（単位：千円）

	株主資本			
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	株主資本合計
当期首残高	10,000	760,765	256,005	1,026,771
当中間期変動額				
剰余金の配当	—	—	△7,800	△7,800
親会社株主に帰属する 中間純利益	—	—	45,551	45,551
株主資本以外の項目の当中 間期変動額（純額）	—	—	—	—
当中間期変動額合計	—	—	37,751	37,751
当中間期末残高	10,000	760,765	293,757	1,064,522

	その他の包括利益累計額		純資産合計
	為替換算調整勘定	その他の包括利益累計 額合計	
当期首残高	1,208	1,208	1,027,979
当中間期変動額			
剰余金の配当	—	—	△7,800
親会社株主に帰属する 中間純利益	—	—	45,551
株主資本以外の項目の当中 間期変動額（純額）	162	162	162
当中間期変動額合計	162	162	37,913
当中間期末残高	1,370	1,370	1,065,893

④【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2018年 7月 1日 至 2019年 6月 30日)	当連結会計年度 (自 2019年 7月 1日 至 2020年 6月 30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	11,722	311,719
減価償却費	443,728	563,951
減損損失	—	55,000
のれん償却額	40,259	39,092
負ののれん発生益	—	△199,977
持分法による投資損益 (△は益)	16,659	△2,111
関係会社株式売却損益 (△は益)	△23,885	△17,707
固定資産売却損益 (△は益)	17,877	△37,627
固定資産除却損	11,722	1,199
保険解約損益 (△は益)	—	△259,137
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△39,422	△13,134
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	14,391	13,414
役員退職慰労引当金の増減額 (△は減少)	18,242	△123,474
受取利息及び受取配当金	△84	△142
支払利息	38,537	40,602
売上債権の増減額 (△は増加)	18,695	466,635
たな卸資産の増減額 (△は増加)	53,710	69,496
仕入債務の増減額 (△は減少)	13,663	△87,180
その他	17,200	29,558
小計	653,019	850,176
利息及び配当金の受取額	76	140
利息の支払額	△38,537	△40,602
法人税等の支払額	△5,546	△10,721
営業活動によるキャッシュ・フロー	609,011	798,992
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の純増減額 (△は増加)	1,730	5,135
投資有価証券の売却による収入	59,405	—
有形固定資産の取得による支出	△371,750	△390,587
有形固定資産の売却による収入	202,812	49,465
無形固定資産の取得による支出	△12,266	△15,225
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による収入	—	※3 149,963
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	※2 △105,378	※3 △58,013
保険積立金の解約による収入	—	265,394
その他	△3,262	25,092
投資活動によるキャッシュ・フロー	△228,710	31,225
財務活動によるキャッシュ・フロー		
非支配株主への配当金の支払額	△3,120	△780
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△90,936	△32,000
長期借入れによる収入	781,640	972,650
長期借入金の返済による支出	△514,638	△795,609
社債の償還による支出	—	△280,000
リース債務の返済による支出	△207,282	△255,032
連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の取得による支出	—	△786
連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の売却による収入	900	—
その他	△3,265	△6,531
財務活動によるキャッシュ・フロー	△36,703	△398,090
現金及び現金同等物に係る換算差額	△451	621

	前連結会計年度 (自 2018年7月1日 至 2019年6月30日)	当連結会計年度 (自 2019年7月1日 至 2020年6月30日)
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	343,146	432,748
現金及び現金同等物の期首残高	418,533	761,680
現金及び現金同等物の期末残高	※1 761,680	※1 1,194,428

【中間連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	当中間連結会計期間 (自 2020年7月1日 至 2020年12月31日)	
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前中間当期純利益		68,157
減価償却費		303,375
のれん償却額		13,984
賞与引当金の増減額 (△は減少)		5,921
貸倒引当金の増減額 (△は減少)		1,218
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)		25,056
役員退職慰労引当金の増減額 (△は減少)		3,410
受取利息及び受取配当金		△718
支払利息		8,127
固定資産売却損益 (△は益)		△1,877
保険解約損益 (△は益)		△356,827
売上債権の増減額 (△は増加)		119,942
たな卸資産の増減額 (△は増加)		40,666
仕入債務の増減額 (△は減少)		8,753
未収入金の増減額 (△は増加)		△12,426
その他		△134,691
小計		92,071
利息及び配当金の受取額		718
利息の支払額		△7,737
法人税等の支払額		△78,152
営業活動によるキャッシュ・フロー		6,899
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の増減額 (△は増加)		△250
有形固定資産の取得による支出		△98,061
有形固定資産の売却による収入		44,508
無形固定資産の取得による支出		△9,080
投資有価証券の売却による収入		42,093
保険積立金の解約による収入		366,089
その他		6,485
投資活動によるキャッシュ・フロー		351,785
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)		△37,500
長期借入れによる収入		330,000
長期借入金の返済による支出		△342,423
リース債務の返済による支出		△146,690
配当金の支払額		△7,800
その他		△4,189
財務活動によるキャッシュ・フロー		△208,602
現金及び現金同等物に係る換算差額		58
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)		150,140
現金及び現金同等物の期首残高		1,194,428
現金及び現金同等物の中間期末残高	※1	1,344,569

【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1. 連結の範囲に関する事項

(1) 連結子会社の数

7社

連結子会社の名称

(株)オージック、(株)セイエン、(株)鍛冶屋、(株)三翔精工、美原精工(株)、(株)フジタイト、JLTA

上記のうち、美原精工(株)と(株)フジタイトについては、当連結会計年度において株式を取得したことに伴い、連結の範囲に含めております。

(2) 非連結子会社の数 一社

2. 持分法の適用に関する事項

持分法適用の関連会社数 一社

当連結会計年度において、持分法適用会社である韓国の Haewon ogic Co., Ltd. の当社保有株式の一部を売却したことに伴い、同社を持分法の適用範囲から除外しております。

3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社の決算日が連結決算日と異なる会社は次のとおりであります。

会社名	決算日
(株)三翔精工	5月31日 ※1
(株)フジタイト	4月30日 ※1
JLTA	12月31日 ※2

※1：連結子会社の決算日現在の財務諸表を使用しております。ただし、連結決算日との間に生じた重要な取引については、連結上必要な調整を行っております。

※2：連結決算日現在で本決算に準じた仮決算を行った財務諸表を基礎としております。

4. 会計方針に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

① 有価証券

その他有価証券

時価のあるもの

期末日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）を採用しております。

時価のないもの

移動平均法による原価法を採用しております。

② たな卸資産

当社及び連結子会社は主として移動平均法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切り下げの方法により算定）を採用しております。

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

① 有形固定資産（リース資産を除く）

当社及び国内連結子会社は定率法を採用しております。ただし、1998年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備を除く）並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法を採用しております。機械装置についても定額法によっております。

また、在外連結子会社は定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりです。

建物及び構築物 6～47年

機械装置及び運搬具 2～10年

② 無形固定資産（リース資産を除く）

定額法を採用しております。

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内利用可能期間（5年）に基づく定額法を採用しております。

③ リース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

④ 長期前払費用

均等償却によっております。

(3) 重要な引当金の計上基準

① 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、当社及び国内連結子会社は一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。また在外連結子会社は主として特定の債権について回収不能見込額を計上しております。

② 賞与引当金

当社および国内連結子会社は従業員に対して支給する賞与の支出に充てるため、支給見込額の当連結会計年度負担額を計上しております。

③ 役員退職慰労引当金

当社および国内連結子会社は役員の退職慰労金の支出に備えて、役員退職慰労金規程に基づく期末要支給額を計上しております。

(4) 退職給付に係る会計処理の方法

当社及び国内連結子会社は、退職給付に係る負債及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。

(5) 重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算の基準

外貨建金銭債権債務は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。なお、在外子会社等の資産及び負債は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、収益及び費用は期中平均相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定及び非支配株主持分に含めて計上しております。

(6) 重要なヘッジ会計の方法

① ヘッジ会計の方法

繰延ヘッジ処理を採用しております。また、金利スワップについて特例処理の条件を充たしている場合には特例処理を採用しております。

② ヘッジ手段とヘッジ対象

a ヘッジ手段・・・金利スワップ

b ヘッジ対象・・・借入金

③ ヘッジ方針

金利リスクの低減並びに金融収支改善のため、対象債務の範囲でヘッジを行っております。

④ ヘッジ有効性評価の方法

特例処理によっている金利スワップのみであるため、有効性の評価を省略しております。

(7) のれんの償却方法及び償却期間

5年間から10年間の定額法により償却を行っております。

(8) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なリスクしか負わない取得日から3か月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。

(9) その他連結財務諸表作成のための重要な事項

① 消費税等の会計処理

税抜方式によっております。

② 連結納税制度の適用

当連結会計年度より連結納税制度の適用を取りやめております。

(未適用の会計基準等)

(収益認識に関する会計基準等)

- ・「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日 企業会計基準委員会)
- ・「収益認識に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第30号 2021年3月26日 企業会計基準委員会)
- ・「金融商品の時価等の開示に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第19号 2020年3月31日 企業会計基準委員会)

1. 概要

収益認識に関する包括的な会計基準であります。収益は、次の5ステップを適用し認識されます。

ステップ1：顧客との契約を識別する。

ステップ2：契約における履行義務を識別する。

ステップ3：取引価格を算定する。

ステップ4：契約における履行義務に取引価格を配分する。

ステップ5：履行義務を充足した時にまたは充足するに伴って認識する。

2. 適用予定日

2022年6月期の期首より適用予定であります。

3. 当該会計基準等の適用による影響

「収益認識に関する会計基準」等の適用による連結財務諸表に与える影響額については、当発行者情報公表日時点において評価中であります。

(時価の算定に関する会計基準等)

- ・「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日 企業会計基準委員会)
- ・「棚卸資産の評価に関する会計基準」(企業会計基準第9号 2019年7月4日 企業会計基準委員会)
- ・「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日 企業会計基準委員会)
- ・「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 2019年7月4日 企業会計基準委員会)
- ・「金融商品の時価等の開示に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第19号 2020年3月31日 企業会計基準委員会)

1. 概要

国際会計基準審議会(IASB)及び米国財務会計基準審議会(FASB)が、公正価値測定についてはほぼ同じ内容の詳細なガイダンス(国際財務報告基準(IFRS)においてはIFRS第13号「公正価値測定」、米国会計基準においてはAccounting Standards CodificationのTopic820「公正価値測定」)を定めている状況を踏まえ、企業会計基準委員会において、主に金融商品の時価に関するガイダンス及び開示に関して、日本基準を国際的な会計基準の整合性を図る取組みが行われ、「時価の算定に関する会計基準」等が公表されたものです。

企業会計基準委員会の時価算定に関する会計基準の開発にあたっての基本的な方針として、統一的な算定方法を用いることにより、国内外の企業間における財務諸表の比較可能性を向上させる観点から、IFRS第13号の定めを基本的にすべて取り入れることとされ、また、これまでわが国で行われてきた実務等に配慮し、財務諸表間の比較可能性を大きく損なわせない範囲で、個別項目に対するその他の取扱いを定めることとされております。

2. 適用予定日

2022年6月期の期首より適用予定であります。

3. 当該会計基準等の適用による影響

「時価の算定に関する会計基準」等の適用による連結財務諸表に与える影響額については、現時点で未定であります。

(会計上の見積りの開示に関する会計基準)

- ・「会計上の見積りの開示に関する会計基準」(企業会計基準第31号 2020年3月31日 企業会計基準委員会)

1. 概要

国際会計基準審議会 (IASB) が 2003 年に公表した国際会計基準 (IAS) 第 1 号「財務諸表の表示」(以下「IAS 第 1 号」) 第 125 項において開示が求められている「見積りの不確実性の発生要因」について、財務諸表利用者にとって有用性が高い情報として日本基準においても注記情報として開示を求めることを検討するよう要望が寄せられ、企業会計基準委員会において、会計上の見積りの開示に関する会計基準(以下「本会計基準」)が開発され、公表されたものです。

企業会計基準委員会の本会計基準の開発にあたっての基本的な方針として、個々の注記を拡充するのではなく、原則(開示目的)を示したうえで、具体的な開示内容は企業が開示目的に照らして判断することとされ、開発にあたっては、IAS 第 1 号第 125 項の定めを参考とすることとしたものです。

2. 適用予定日

2021 年 6 月期の年度末より適用予定であります。

(会計方針の開示、会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準)

- ・「会計方針の開示、会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第 24 号 2020 年 3 月 31 日 企業会計基準委員会)

1. 概要

「関連する会計基準等の定めが明らかでない場合に採用した会計処理の原則及び手続」に係る注記情報の充実について検討することが提言されたことを受け、企業会計基準委員会において、所要の改正を行い、会計方針の開示、会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準として公表されたものです。

なお、「関連する会計基準等の定めが明らかでない場合に採用した会計処理の原則及び手続」に係る注記情報の充実を図るに際しては、関連する会計基準等の定めが明らかな場合におけるこれまでの実務に影響を及ぼさないために、企業会計原則注解(注 1-2)の定めを引き継ぐこととされております。

2. 適用予定日

2021 年 6 月期の年度末より適用予定であります。

(追加情報)

新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響に関する会計上の見積り

当社グループは、固定資産の減損や繰延税金資産の回収可能性等の会計上の見積りにおいて、当連結会計年度末時点で入手可能な情報に基づき実施しております。

なお、新型コロナウイルス感染症の広がりや収束時期等の予測には不確実性を伴うため、実際の結果はこれらの見積りと異なる場合があります。

(連結貸借対照表関係)

※1 有形固定資産の減価償却累計額

	前連結会計年度 (2019年6月30日)	当連結会計年度 (2020年6月30日)
有形固定資産の減価償却累計額	6,127,796千円	6,638,479千円

※2 非連結子会社及び関連会社に対するものは、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2019年6月30日)	当連結会計年度 (2020年6月30日)
投資有価証券(株式)	65,312千円	一千円

※3 担保資産及び担保付債務

担保に供している資産は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2019年6月30日)	当連結会計年度 (2020年6月30日)
定期預金(現金及び預金)	一千円	3,000千円
建物及び構築物	355,705千円	513,430千円
土地	464,579千円	464,579千円
計	820,285千円	981,010千円

担保付債務は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2019年6月30日)	当連結会計年度 (2020年6月30日)
短期借入金	10,000千円	50,000千円
1年以内返済予定長期借入金	197,420千円	296,580千円
長期借入金	690,907千円	1,049,395千円
計	898,327千円	1,395,975千円

※4 圧縮記帳額

国庫補助金等により有形固定資産の取得価額から控除している圧縮記帳額及びその内訳は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2019年6月30日)	当連結会計年度 (2020年6月30日)
圧縮記帳額	20,000千円	40,000千円
(うち、機械装置及び運搬具)	20,000千円	30,000千円
(うち、その他)	一千円	10,000千円

※5 連結会計年度末日満期手形等

連結会計年度末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しております。なお、連結会計年度末日が金融機関の休日であったため、次の期末日満期手形が受取手形の期末残高に含まれております。

	前連結会計年度 (2019年6月30日)	当連結会計年度 (2020年6月30日)
受取手形	9,957千円	一千円

※6 当座貸越契約

連結子会社（㈱オーミック、㈱セイエン、㈱鍛冶屋、㈱三翔精工、㈱フジタイト）においては、運転資金の効率的な調達を行うため取引銀行7行と当座貸越契約を締結しております。これらの契約に基づく連結会計年度末における当座貸越契約に係る借入未実行残高は次の通りであります。

	前連結会計年度 (2019年6月30日)	当連結会計年度 (2020年6月30日)
当座貸越限度額	480,000千円	520,000千円
借入実行残高	103,750千円	56,250千円
差引額	376,250千円	463,750千円

※7 財務制限条項

一部の連結子会社は、金融機関との間で、各年度の決算期における損益計算書に示される営業損益が2020年6月期以降の決算期につき2期連続して損失とならないようにすることとする財務制限条項が付された金銭消費貸借契約を締結しており、当該借入金の残高は以下となります。

前連結会計年度（自 2018年7月1日 至 2019年6月30日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自 2019年7月1日 至 2020年6月30日）

1年以内返済予定長期借入金	44,004千円
長期借入金	172,329千円

(連結損益計算書関係)

※1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2018年7月1日 至 2019年6月30日)	当連結会計年度 (自 2019年7月1日 至 2020年6月30日)
役員報酬	86,708千円	96,515千円
給料手当	239,140千円	180,302千円
賞与引当金繰入額	—	28,473千円
退職給付費用	2,623千円	25,074千円
役員退職引当金繰入額	18,242千円	16,526千円

※2 研究開発費の総額

	前連結会計年度 (自 2018年7月1日 至 2019年6月30日)	当連結会計年度 (自 2019年7月1日 至 2020年6月30日)
一般管理費に含まれる研究開発費	—千円	2,717千円

※3 固定資産売却益の内容は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2018年7月1日 至 2019年6月30日)	当連結会計年度 (自 2019年7月1日 至 2020年6月30日)
建物及び構築物	—	32,353千円
機械装置及び運搬具	6,110千円	7,585千円
計	6,110千円	39,939千円

※4 固定資産売却損の内容は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2018年7月1日 至 2019年6月30日)	当連結会計年度 (自 2019年7月1日 至 2020年6月30日)
機械装置及び運搬具	23,988千円	2,311千円

※5 固定資産除却損の内容は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2018年7月1日 至 2019年6月30日)	当連結会計年度 (自 2019年7月1日 至 2020年6月30日)
機械装置及び運搬具	11,722千円	1,199千円

※6 減損損失

当社グループは以下の資産グループについて減損損失を計上しました。

前連結会計年度(自 2018年7月1日 至 2019年6月30日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 2019年7月1日 至 2020年6月30日)

場所	用途	種類	減損損失額
大阪府堺市美原区 (株鍛冶屋)	—	のれん	55,000千円

上記ののれんは当社の連結子会社に係るものであり、収益力及び今後の事業計画を検討した結果、想定していた収益が見込めなくなったことから未償却残高を減損損失として計上しております。

なお、当該資産の回収可能価額は使用価値により算定しており、回収可能価額を零として評価しております。

(連結包括利益計算書関係)

※1 その他の包括利益に係る組替調整額

	前連結会計年度 (自 2018年7月1日 至 2019年6月30日)	当連結会計年度 (自 2019年7月1日 至 2020年6月30日)
為替換算調整勘定:		
当期発生額	△1,860千円	2,399千円
持分法適用会社に対する持分 相当額:		
当期発生額	△7,026千円	△3,531千円
その他包括利益合計	△8,886千円	△1,131千円

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 2018年7月1日 至 2019年6月30日)

1. 発行済株式に関する事項

	当連結会計年度 期首株式数(株)	当連結会計年度 増加株式数(株)	当連結会計年度 減少株式数(株)	当連結会計年度末 株式数(株)
普通株式	20,000	—	—	20,000
合計	20,000	—	—	20,000

2. 自己株式の種類及び株式に関する事項

該当事項はありません。

3. 新株予約権に関する事項

該当事項はありません。

4. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

該当事項はありません。

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 2019年7月1日 至 2020年6月30日)

1. 発行済株式に関する事項

	当連結会計年度 期首株式数(株)	当連結会計年度 増加株式数(株)	当連結会計年度 減少株式数(株)	当連結会計年度末 株式数(株)
普通株式 (注1、2、3)	20,000	130,000	19,999	130,001
合計	20,000	130,000	19,999	130,001

(注) 1. 当社は2020年5月15日付で普通株式20,000株につき1株の割合で株式併合を行っております。

2. 普通株式の発行済株式総数の減少19,999株は株式併合によるものであります。

3. 普通株式の発行済株式総数の増加130,000株は、㈱オージックとの株式交換による新株発行によるものであります。

2. 自己株式の種類及び株式に関する事項

該当事項はありません。

3. 新株予約権に関する事項

該当事項はありません。

4. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

該当事項はありません。

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	配当の原資	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日
2020年9月28日 定時株主総会	普通株式	7,800	利益剰余金	60	2020年6月30日	2020年9月29日

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

※1. 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前連結会計年度 (自 2018年7月1日 至 2019年6月30日)	当連結会計年度 (自 2019年7月1日 至 2020年6月30日)
現金及び預金勘定	794,336千円	1,233,769千円
預入期間が3か月を超える定期預金	△32,656	△39,340
現金及び現金同等物	761,680	1,194,428

※2. 前連結会計年度に株式の取得により新たに連結子会社となった会社の資産及び負債の主な内訳

株式の取得により新たに(株)三翔精工を連結したことに伴う連結開始時の資産及び負債の内訳並びに(株)三翔精工株式の取得価額と(株)三翔精工取得のための支出(純額)との関係は次のとおりであります。

流動資産	169,706	千円
固定資産	262,370	
のれん	115,175	
流動負債	△254,167	
固定負債	△153,084	
(株)三翔精工の取得価額	140,000	
(株)三翔精工の現金及び現金同等物	△34,621	
差引：(株)三翔精工取得のための支出	105,378	

※3. 当連結会計年度に株式の取得により新たに連結子会社となった会社の資産及び負債の主な内訳

株式の取得により新たに美原精工(株)を連結したことに伴う連結開始時の資産及び負債の内訳並びに美原精工(株)株式の取得価額と美原精工(株)取得のための支出(純額)との関係は次のとおりであります。

流動資産	307,559	千円
固定資産	563,038	
流動負債	△240,634	
固定負債	△309,920	
負ののれん	△199,977	
美原精工(株)の取得価額	120,064	
美原精工(株)の現金及び現金同等物	△62,050	
差引：美原精工(株)取得のための支出	58,013	

株式の取得により新たに(株)フジタイトを連結したことに伴う連結開始時の資産及び負債の内訳並びに(株)フジタイト株式の取得価額と(株)フジタイト取得のための支出(純額)との関係は次のとおりであります。

流動資産	373,793	千円
固定資産	101,049	
のれん	130,507	
流動負債	△168,248	
固定負債	△342,601	
(株)フジタイトの取得価額	94,500	
(株)フジタイトの現金及び現金同等物	△244,463	
差引：(株)フジタイト取得のための収入	△149,963	

※4. 重要な非資金取引の内容

	前連結会計年度 (自 2018年7月1日 至 2019年6月30日)	当連結会計年度 (自 2019年7月1日 至 2020年6月30日)
株式交換による資本剰余金増加額	一千円	760,546千円

(リース取引関係)

1. ファイナンス・リース取引

所有権移転外ファイナンス・リース取引

① リース資産の内容

有形固定資産「機械装置及び運搬具」であります。

② リース資産の減価償却の方法

連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項「4. 会計方針に関する事項 (2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、資金運用については短期的な預金等に限定し、また、資金調達については金融機関からの借入及び新株発行による方針であります。また、デリバティブ取引は、金利リスクを回避するために利用しており、投機的な取引は行わない方針であります。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である売掛金は顧客の信用リスクに晒されております。

営業債務である買掛金等は、そのほとんどが3か月以内の支払期日であります。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

①信用リスク（取引先の契約不履行等に係るリスク）の管理

営業債権は売掛金等については、経常的に発生しており、担当者が、所定の手続きに従い、債権回収の状況を定期的にモニタリングを行い、支払遅延の早期把握や回収リスクの軽減を図っております。

特に金額等の重要性が高い取引については、取締役会において、取引実行の決定や回収状況の報告などを行います。

②市場リスク（為替や金利等の変動リスク）の管理

投資有価証券については、定期的に発行体（取引先企業）の財務状況を把握しております。

③資金調達に係る流動性リスク（支払期日に支払いを実行できなくなるリスク）の管理

買掛金及び未払金については月次単位での支払予定を把握するとともに、手元流動性の維持などにより流動性リスクを管理しております。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することがあります。

2. 金融商品の時価等に関する事項

前連結会計年度（2019年6月30日）

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価 (千円)	差額 (千円)
(1)現金及び預金	794,336	794,336	—
(2)受取手形及び売掛金	1,251,853	1,251,853	—
資産計	2,046,189	2,046,189	—
(1)買掛金	175,911	175,911	—
(2)未払金	230,062	230,062	—
(3)短期借入金	133,350	133,350	—
(4)長期借入金（1年内返済予定を含む）	2,260,566	2,272,770	12,203
(5)リース債務（長期リース債務を含む）	1,020,283	1,009,620	△10,662
負債計	3,820,173	3,821,714	1,540

当連結会計年度（2020年6月30日）

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価 (千円)	差額 (千円)
(1)現金及び預金	1,233,769	1,233,769	—
(2)受取手形及び売掛金	960,479	960,479	—
資産計	2,194,248	2,194,248	—
(1)買掛金	108,832	108,832	—
(2)未払金	367,083	367,083	—
(3)短期借入金	151,350	151,350	—
(4)長期借入金（1年内返済予定を含む）	2,849,676	2,869,496	19,820
(5)リース債務（長期リース債務を含む）	1,018,936	1,012,259	△6,677
負債計	4,495,878	4,509,020	13,142

(注) 1. 金融商品の時価の算定方法

資産

(1)現金及び預金、(2)受取手形及び売掛金

短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

負債

(1)買掛金、(2)未払金、(3)短期借入金

短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(4)長期借入金（1年内返済予定を含む）、(5)リース債務（長期リース債務を含む）

これらの時価については、元利金の合計額を新規に同様の借入又はリース取引を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。

2. 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品の連結貸借対照表計上額

(単位：千円)

区分	前連結会計年度 (2019年6月30日)	当連結会計年度 (2020年6月30日)
非上場株式	65,312	63,028
社債	280,000	—
合計	345,312	63,028

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、「2. 金融商品の時価等に関する事項」には含めておりません。

3. 金銭債権の連結決算日後の償還予定額
前連結会計年度（2019年6月30日）

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金及び預金	794,336	—	—	—
受取手形及び売掛金	1,251,853	—	—	—
合計	2,046,189	—	—	—

当連結会計年度（2020年6月30日）

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金及び預金	1,233,769	—	—	—
受取手形及び売掛金	960,479	—	—	—
合計	2,194,248	—	—	—

4. 社債、長期借入金及びリース債務の連結決算日後の返済予定額
前連結会計年度（2019年6月30日）

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)
短期借入金	133,350	—	—	—	—	—
社債	—	—	280,000	—	—	—
長期借入金（1年内返済予定を含む）	527,434	458,824	448,407	334,114	146,204	345,583
リース債務	247,530	247,204	219,995	164,174	90,836	50,542
合計	908,314	706,028	948,402	498,288	237,040	396,126

当連結会計年度（2020年6月30日）

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)
短期借入金	151,350	—	—	—	—	—
長期借入金（1年内返済予定を含む）	654,670	665,855	573,390	353,086	204,275	398,400
リース債務	286,534	271,897	213,691	137,884	94,880	14,048
合計	1,092,554	937,752	787,081	490,970	299,155	412,448

(デリバティブ取引関係)

1. ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

(1) 金利関係

前連結会計年度 (2019年6月30日)

ヘッジ会計の方法	デリバティブ取引の種類等	主なヘッジ対象	契約額等 (千円)	契約額等のうち 1年超 (千円)	時価 (千円)
金利スワップの特例処理	金利スワップ取引 支払固定・受取変動	長期借入金	61,526	19,428	(注)

(注) 金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価は、長期借入金の時価に含めて記載しております。

当連結会計年度 (2020年6月30日)

ヘッジ会計の方法	デリバティブ取引の種類等	主なヘッジ対象	契約額等 (千円)	契約額等のうち 1年超 (千円)	時価 (千円)
金利スワップの特例処理	金利スワップ取引 支払固定・受取変動	長期借入金	42,098	19,428	(注)

(注) 金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価は、長期借入金の時価に含めて記載しております。

(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

一部の連結子会社は、従業員の退職給付に充てるため、退職一時金制度を採用しております。また、一部の連結子会社は、確定拠出年金制度を採用しております。

なお、一部の連結子会社が有する退職一時金制度は、小規模企業等における簡便法の採用により、退職給付に係る負債及び退職給付費用を計算しております。

2. 簡便法を適用した確定給付制度

(1) 簡便法を適用した制度の、退職給付に係る負債の期首残高と期末残高の調整表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2018年7月1日 至 2019年6月30日)	当連結会計年度 (自 2019年7月1日 至 2020年6月30日)
退職給付に係る負債の期首残高	185,109	243,416
退職給付費用	17,630	31,627
退職給付の支払額	△3,239	△18,213
新規連結に伴う増加額	43,915	137,591
退職給付に係る負債の期末残高	243,416	394,422

(2) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債及び退職給付に係る資産の調整表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年6月30日)	当連結会計年度 (2020年6月30日)
非積立型制度の退職給付債務	243,416	394,422
連結貸借対照表に計上された 負債と資産の純額	243,416	394,422
退職給付に係る負債	243,416	394,422
連結貸借対照表に計上された 負債と資産の純額	243,416	394,422

(3) 退職給付費用

簡便法で計算した退職給付費用 前連結会計年度 17,630千円 当連結会計年度 31,627千円

3. 確定拠出制度

確定拠出制度への要拠出額は、前連結会計年度 一千円、当連結会計年度 一千円であります。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (2019年6月30日)	当連結会計年度 (2020年6月30日)
繰延税金資産		
税務上の繰越欠損金(注)2	148,848 千円	191,895 千円
減価償却超過額	34,795	47,764
未払金	2,450	89,014
賞与引当金	56,100	45,425
退職給付に係る負債	83,005	134,484
役員退職慰労引当金	149,921	101,679
取得関連費用	15,475	30,820
その他	7,009	14,817
繰延税金資産小計	497,605	655,900
税務上の繰越欠損金に係る評価性引当額(注)2	△58,051	△36,503
将来減算一時差異等の合計に係る評価性引当額	△287,413	△390,560
評価性引当額小計(注)1	△345,465	△427,064
繰延税金資産合計	152,140	228,836
繰延税金負債		
土地評価差額金	-	△152,504
圧縮積立金	△80,191	△82,774
特別償却準備金	△93,784	△48,543
為替換算調整勘定	△1,901	-
繰延税金負債合計	△175,877	△283,821
繰延税金負債の純額	△23,737	△54,985

(注) 1. 当連結会計年度末に美原精工㈱及び㈱フジタイトを連結の範囲に含めたため、繰越欠損金及び退職給付に係る負債に係る繰延税金資産と評価性引当額が増加しております。

2. 税務上の繰越欠損金及びその繰延税金資産の繰越期限別の金額

前連結会計年度(2019年6月30日)

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)	合計 (千円)
税務上の繰越欠損金(※1)	-	-	-	-	-	148,848	148,848
評価性引当額	-	-	-	-	-	△58,051	△58,051
繰延税金資産	-	-	-	-	-	90,796	90,796

(※1) 税務上の繰越欠損金は、法定実効税率を乗じた額であります。

(※2) 翌事業年度以降において課税所得が見込まれることにより、税務上の繰越欠損金の一部を回収可能と判断しております。

当連結会計年度(2020年6月30日)

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)	合計 (千円)
税務上の繰越欠損金(※1)	-	-	12,530	-	-	179,364	191,895
評価性引当額	-	-	-	-	-	△36,503	△36,503
繰延税金資産	-	-	12,530	-	-	142,860	155,391

(※1) 税務上の繰越欠損金は、法定実効税率を乗じた額であります。

(※2) 翌事業年度以降において課税所得が見込まれることにより、税務上の繰越欠損金の一部を回収可能と判断しております。

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目

	前連結会計年度 (2019年6月30日)	当連結会計年度 (2020年6月30日)
法定実効税率 (調整)	34.10 %	34.10 %
住民税均等割等	6.85	0.52
評価性引当額の増減	47.16	△10.65
のれん償却額	117.12	10.29
負ののれん発生益	—	△21.88
関係会社株式売却損益の連結修正	△823.32	—
持分法投資損益	△19.50	△1.95
その他	64.88	△0.51
税効果会計適用後の法人税等の負担率	△572.71	9.92

(企業結合等関係)

(取得による企業結合)

1. 企業結合の概要

(1) 被取得企業の名称及びその事業の内容

被取得企業の名称 美原精工(株)

事業の内容 金属加工業(直動送りねじメーカー)

(2) 企業結合を行った主な理由

美原精工(株)は、工作機械業界を取引先に有し、当社グループの中核企業であるオージック歯車事業部との営業のシナジー効果と取引先の裾野の拡大を図るためであります。

(3) 企業結合日

2019年11月27日(株式取得日)

2020年6月30日(みなし取得日)

(4) 企業結合の法的形式

現金を対価とする株式取得

(5) 結合後企業の名称

名称の変更はありません。

(6) 取得した議決権比率

100%

(7) 取得企業を決定するに至った主な根拠

(株)オージックが現金を対価として株式を取得したためであります。

2. 連結財務諸表に含まれている被取得企業の業績の期間

2020年6月30日をみなし取得日とし、貸借対照表のみを連結しているため、被取得企業の業績は含まれておりません。

3. 被取得企業の取得原価及び対価の種類ごとの内訳

取得の対価 現金 120,064千円

取得原価 120,064千円

4. 主要な取得関連費用の内容及び金額

アドバイザー費用等 10,000千円

5. 負ののれん発生益の金額及び発生原因

(1) 負ののれん発生益の金額

199,977千円

(2) 発生原因

受け入れた資産及び引き受けた負債の純額が株式の取得原価を上回ったため、その差額を負ののれん発生益として処理しております。

6. 企業結合日に受け入れた資産及び引き受けた負債の額並びにその主な内訳

流動資産	307,559	千円
<u>固定資産</u>	<u>563,038</u>	<u>千円</u>
<u>資産合計</u>	<u>870,597</u>	<u>千円</u>
流動負債	240,634	千円
<u>固定負債</u>	<u>309,920</u>	<u>千円</u>
負債合計	550,555	千円

7. 企業結合が連結会計年度の開始の日に完了したと仮定した場合の当連結会計年度の連結損益計算書に及ぼす影響の概算額及びその算定方法

当連結会計年度における概算額の算定が困難であるため、記載しておりません。

(取得による企業結合)

1. 企業結合の概要

(1) 被取得企業の名称及びその事業の内容

被取得企業の名称 (株)フジタイト

事業の内容 金属部品加工事業(難削材切削加工)

(2) 企業結合を行った主な理由

当社グループと(株)フジタイトは、共に金属部品加工事業を営んでいますが、当社グループにはないNC自動複合旋盤を主設備とする会社で、両社がこれまで培ってきた経営資源を融合することで、総合的な金属加工製品の提案並びに提供につながり営業力強化を図るためであります。

(3) 企業結合日

2020年2月12日(株式取得日)

2020年4月30日(みなし取得日)

(4) 企業結合の法的形式

現金を対価とする株式取得

(5) 結合後企業の名称

名称の変更はありません。

(6) 取得した議決権比率

100%

(7) 取得企業を決定するに至った主な根拠

(株)オージックが現金を対価として株式を取得したためであります。

2. 連結財務諸表に含まれている被取得企業の業績の期間

2020年4月30日をみなし取得日とし、貸借対照表のみを連結しているため、被取得企業の業績は含まれておりません。

3. 被取得企業の取得原価及び対価の種類ごとの内訳

取得の対価	現金	94,500千円
取得原価		94,500千円

4. 主要な取得関連費用の内容及び金額

アドバイザー費用等 35,000千円

5. 発生したのれんの金額、発生原因、償却方法及び償却期間

(1) 発生したのれん

130,507千円

(2) 発生原因

今後の事業展開により期待される将来の超過収益力であります。

(3) 償却方法及び償却期間

5年間にわたる均等償却

6. 企業結合日に受け入れた資産及び引き受けた負債の額並びにその主な内訳

流動資産	373,793	千円
<u>固定資産</u>	<u>101,049</u>	<u>千円</u>
<u>資産合計</u>	<u>474,842</u>	<u>千円</u>
流動負債	168,248	千円
<u>固定負債</u>	<u>342,601</u>	<u>千円</u>
負債合計	510,849	千円

7. 企業結合が連結会計年度の開始の日に完了したと仮定した場合の当連結会計年度の連結損益計算書に及ぼす影響の概算額及びその算定方法

当連結会計年度における概算額の算定が困難であるため、記載しておりません。

(共通支配下の取引等)

株式交換による完全子会社化

当社は、2020年5月20日開催の取締役会において、当社を株式交換完全親会社とし、当社の連結子会社である㈱オージックを株式交換完全子会社とする株式交換（以下「本株式交換」という。）を行うことを決議し、2020年5月20日付で株式交換契約を締結しました。本株式交換は2020年6月30日を効力発生日として実施され、㈱オージックは同日付で当社の完全子会社となっております。

当該企業結合の概要は以下のとおりであります。

1. 企業結合の概要

(1) 被取得企業の名称及びその事業の内容

被取得企業の名称 ㈱オージック

事業の内容 金属部品加工事業（精密歯車製造、精密部品加工）

(2) 企業結合を行った主な理由

当社が企業経営の透明性、資金調達の柔軟性の観点より、TOKYO PRO Marketへの上場準備に取り組むにあたり、グループ再編の必要が生じたためであります。

(3) 企業結合日

2020年6月30日

(4) 企業結合の法的形式

株式交換

(5) 結合後企業の名称

変更はありません。

(6) 取得後の議決権比率

100%

(7) 取得企業を決定するに至った主な根拠

当社が本株式交換により㈱オージックの議決権の100%を取得し、㈱オージックが完全子会社となることによるものであります。

2. 実施した会計処理の概要

「企業結合に関する会計基準」（企業会計基準第21号 2019年1月16日）及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」（企業会計基準適用指針第10号 2019年1月16日）に定める共通支配下の取引等に該当し、これに基づく会計処理を実施しております。

3. 被取得企業の取得原価及び対価の種類ごとの内訳

取得の対価	当社普通株式	1,101,238千円
取得原価		1,101,238千円

4. 株式の種類別の交換比率及びその算定方法並びに交付した株式数

(1) 株式の種類別の交換比率

(株)オージックの普通株式1株に対して、当社の普通株式1株を割当交付いたしました。

(2) 株式交換比率の算定方法

株式交換比率の算定にあたって、当社は(株)NEXコンサルティングを財務アドバイザーに任命しました。

(株)NEXコンサルティングは、当社及び(株)オージックについて、それぞれ非公開会社の株価算定原則に従い、純資産価額を基準にした法人税法上の評価額をもって株式交換比率を算定しました。

(3) 交付した株式数

130,000株

5. 非支配株主との取引に係る当社の持分変動に関する事項

(1) 資本剰余金の主な変動要因

子会社株式の取得

(2) 非支配株主との取引によって増加した資本剰余金の金額

760,765千円

(事業分離)

1. 事業分離の概要

(1) 分離先企業の名称

Haewon ogic Co., Ltd.

(2) 分離した事業の内容

金属加工部品の製造、加工

(3) 事業分離を行った主な理由

朝鮮半島における地政学リスクの低減を図るためです。

(4) 事業分離日

2020年5月21日

(5) 法的形式を含むその他取引の概要に関する事項

株式譲渡

2. 実施した会計処理の概要

(1) 移転損益の金額

関係会社株式売却益 17,707千円

(2) 会計処理

当該譲渡株式の持分法適用後の帳簿価額と売却額の差額を関係会社株式売却益として特別利益に計上しています。

3. 分離した事業が含まれていた報告セグメントの名称

金属部品加工事業

4. 当連結会計年度の連結損益計算書に計上されている分離した事業に係る損益の概算額

影響が軽微であるために、記載を省略しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当社グループは金属部品加工事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

【関連情報】

前連結会計年度（自 2018年7月1日 至 2019年6月30日）

1. 製品及びサービスごとの情報

単一の製品・サービスの区分の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

顧客の名称又は氏名	売上高（千円）	関連するセグメント名
DMG森精機(株)	628,826	金属部品加工事業

当連結会計年度（自 2019年7月1日 至 2020年6月30日）

1. 製品及びサービスごとの情報

単一の製品・サービスの区分の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

顧客の名称又は氏名	売上高（千円）	関連するセグメント名
京セラ(株)	391,836	金属部品加工事業
DMG森精機(株)	375,484	金属部品加工事業

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度（自 2018年7月1日 至 2019年6月30日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自 2019年7月1日 至 2020年6月30日）

当社グループは、金属部品加工事業の単一セグメントであり、記載を省略しております。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前連結会計年度（自 2018年7月1日 至 2019年6月30日）

当社グループは、金属部品加工事業の単一セグメントであり、記載を省略しております。

当連結会計年度（自 2019年7月1日 至 2020年6月30日）

当社グループは、金属部品加工事業の単一セグメントであり、記載を省略しております。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

前連結会計年度（自 2018年7月1日 至 2019年6月30日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自 2019年7月1日 至 2020年6月30日）

当社グループは、金属部品加工事業の単一セグメントであり、記載を省略しております。

【関連当事者情報】

関連当事者との取引

1. 連結財務諸表提出会社と関連当事者との取引

(ア) 連結財務諸表提出会社の親会社及び主要株主（会社等の場合に限る。）等

前連結会計年度（自 2018年7月1日 至 2019年6月30日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自 2019年7月1日 至 2020年6月30日）

該当事項はありません。

(イ) 連結財務諸表提出会社の非連結子会社及び関連会社等

前連結会計年度（自 2018年7月1日 至 2019年6月30日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自 2019年7月1日 至 2020年6月30日）

該当事項はありません。

(ウ) 連結財務諸表提出会社の役員及び主要株主（個人の場合に限る。）等
前連結会計年度（自 2018年7月1日 至 2019年6月30日）

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は 出資金 (千円)	事業の内容又は 職業	議決権等の所 有割合 (被所有 (%))	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残 高 (千円)
役員	田中文彦	奈良 生駒郡 平群町	—	当社代表取締役 役社長	—	債務被保証	当社の銀行 借入に対す る債務被保 証（注）	40,384	—	—
							資金の借入 利息の支払	利息の支払	120	長期借入 金
役員及 びその 近親者 が議決 権の過 半数を 所有し ている 会社	一般社団法人 フィロソ フィー協会	奈良 生駒郡 平群町	—	資産管理	(被所有) 直接 100.0	社債の保有 利息の支払 当社代表取 締役が代表 理事を兼務	社債の利払	3,000	社債	30,000

当連結会計年度（自 2019年7月1日 至 2020年6月30日）

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は 出資金 (千円)	事業の内容又は 職業	議決権等の所 有割合 (被所有 (%))	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残 高 (千円)
役員	田中文彦	奈良 生駒郡 平群町	—	当社代表取締役 役社長	(被所有) 直接 48.4	債務被保証	当社の銀行 借入に対す る債務被保 証（注）	34,430	—	—
							資金の借入 利息の支払	借入の返済 利息の支払	21,099 110	—
役員及 びその 近親者 が議決 権の過 半数を 所有し ている 会社	一般社団法人 フィロソ フィー協会	奈良 生駒郡 平群町	—	資産管理	—	社債の保有 利息の支払 当社代表取 締役が代表 理事を兼務	社債の償還 社債の利払	30,000 2,672	—	—

(注) 1. 田中文彦は、個人主要株主にも該当しております。

2. 2020年4月30日に一般社団法人フィロソフィー協会は保有している当社株式をすべて譲渡しました。なお、本異動後も同法人は、引き続き当社の「役員及びその近親者が議決権の過半数を所有している会社」であることから、当社の関連当事者に該当しております。なお、議決権等の所有割合は、当連結会計年度末時点のものを記載しております。

3. 取引条件及び取引条件の決定方針等

(1) 代表取締役田中文彦からの資金の借入については、個別交渉にて利率を決定しております。借入金は当連結会計年度中に返済いたしました。

(2) 当社は、銀行借入に対して代表取締役田中文彦より債務保証を受けておりますが、保証料の支払いは行っておりません。なお、公表日時点では、債務保証は解消しております。

(3) 一般社団法人フィロソフィー協会が保有する社債については、個別交渉にて利率を決定しております。当該社債は当連結会計年度中に償還いたしました。

2. 連結財務諸表提出会社の連結子会社と関連当事者との取引

(ア) 連結財務諸表提出会社の親会社及び主要株主（会社等の場合に限る。）等

前連結会計年度（自 2018年7月1日 至 2019年6月30日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自 2019年7月1日 至 2020年6月30日）

該当事項はありません。

(イ) 連結財務諸表提出会社の非連結子会社及び関連会社等

前連結会計年度（自 2018年7月1日 至 2019年6月30日）

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金	事業の内容又は職業	議決権等の所有(被所有)割合(%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額(千円)	科目	期末残高(千円)
関連会社	Haewon ogic Co., Ltd.	Changwon-si, Gyeongsangnam-do, Korea	3,400百万ウォン	金属加工部品の加工生産	(所有) 間接 32.4	当社連結子会社製品の委託加工	ギア製品の委託加工	3,861	売掛金	23,013

当連結会計年度（自 2019年7月1日 至 2020年6月30日）

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金	事業の内容又は職業	議決権等の所有(被所有)割合(%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額(千円)	科目	期末残高(千円)
関連会社	Haewon ogic Co., Ltd.	Changwon-si, Gyeongsangnam-do, Korea	3,400百万ウォン	金属加工部品の加工生産	(所有) 間接 19.9	当社連結子会社製品の委託加工	ギア製品の委託加工	1,432	—	—

(注) 1. 上記金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。

2. 取引条件及び取引条件の決定方針等

上記会社への当社連結子会社製品の委託加工については、市場価格を参考に決定しております。

3. 2020年5月21日に連結子会社はHaewon ogic Co., Ltd.の株式を一部譲渡しました。この結果、Haewon ogic Co., Ltd.は、関連当事者に該当しないこととなりました。当連結会計年度の取引金額については、関連当事者であった期間の金額を、また、議決権等の所有割合は関連当事者に該当していた時点での割合を表示しております。なお、期末時点では関連当事者に該当しないため、期末残高を表示しておりません。

(ウ) 連結財務諸表提出会社と同一の親会社をもつ会社等及び連結財務諸表提出会社のその他の関係会社の子会社等

前連結会計年度（自 2018年7月1日 至 2019年6月30日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自 2019年7月1日 至 2020年6月30日）

該当事項はありません。

(エ) 連結財務諸表提出会社の役員及び主要株主（個人の場合に限る。）等
前連結会計年度（自 2018年7月1日 至 2019年6月30日）

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は 出資金 (千円)	事業の内容又は 職業	議決権等の所 有割合 (被所有 (%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
役員	田中文彦	奈良 県生 駒郡 平群 町	—	当社代表取締役 役社長	—	債務被保証	当社の連結 子会社の銀行 借入に対する 債務被保証（注）	277,020	—	—
役員 の近 親者	上田勝	大阪 府茨 木市	—	—	—	社債の保有 利息の支払	社債の利払	749	社債	30,000
役員及 びその 近親者 が議決 権の過 半数を 所有し ている 会社	一般社団法人 フィロソ フィー協会	奈良 県生 駒郡 平群 町	—	資産管理	(被所有) 間接 100.0	当社代表取 締役が代表 理事	社債の利払	5,500	社債	220,000

当連結会計年度（自 2019年7月1日 至 2020年6月30日）

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は 出資金 (千円)	事業の内容又は 職業	議決権等の所 有割合 (被所有 (%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
役員	田中文彦	奈良 県生 駒郡 平群 町	—	当社代表取締役 役社長	(被所有) 間接 48.4	債務被保証	当社の連結 子会社の銀行 借入に対する 債務被保証（注）	190,044	—	—
役員 の近 親者	上田勝	大阪 府茨 木市	—	—	—	社債の保有 利息の支払	社債の償還 社債の利払	30,000 749	—	—
役員及 びその 近親者 が議決 権の過 半数を 所有し ている 会社	一般社団法人 フィロソ フィー協会	奈良 県生 駒郡 平群 町	—	資産管理	—	当社代表取 締役が代表 理事	社債の償還 社債の利払	220,000 20,196	—	—

- (注) 1. 田中文彦は、個人主要株主にも該当しております。
2. 2020年4月30日に一般社団法人フィロソフィー協会は保有している当社株式をすべて譲渡しました。なお、本異動後も同法人は、引き続き当社の「役員及びその近親者が議決権の過半数を所有している会社」であることから、当社の関連当事者に該当しております。なお、議決権等の所有割合は、当連結会計年度末時点のものを記載しております。
3. 取引条件及び取引条件の決定方針等
- (1) 社債については、個別交渉にて利率を決定しております。当該社債は当連結会計年度中に償還いたしました。
- (2) 当社は、銀行借入に対して代表取締役田中文彦より債務保証を受けておりますが、保証料の支払いは行っておりません。なお、公表日時点では、債務保証は解消しております。
- (3) 一般社団法人フィロソフィー協会が保有する社債については、個別交渉にて利率を決定しております。当該社債は当連結会計年度中に償還いたしました。

(1株当たり情報)

区分	前連結会計年度 (自 2018年7月1日 至 2019年6月30日)	当連結会計年度 (自 2019年7月1日 至 2020年6月30日)
1株当たり純資産額	72,500,275.70円	790.75円
1株当たり当期純利益	21,519,262.40円	2,373.78円

- (注) 1. 当社は2020年5月15日付で、当社普通株式20,000株を1株とする株式併合を実施しております。
 また2020年12月10日付で普通株式1株につき10株の株式分割を行いました。前連結会計年度の期首に当該株式併合及び株式分割が行われたと仮定して、1株当たり純資産額及び1株当たり当期純利益を算定しております。
 2. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、当社株式は非上場であり潜在株式が存在しないため記載しておりません。
 3. 1株当たり当期純利益の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2018年7月1日 至 2019年6月30日)	当連結会計年度 (自 2019年7月1日 至 2020年6月30日)
親会社株主に帰属する当期純利益(千円)	215,192	257,182
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する当期純利益(千円)	215,192	257,182
普通株式の期中平均株式数(株)	10	108,343

(重要な後発事象)

(現物配当による子会社の異動)

2020年9月28日開催の(株)オージックの定時株主総会において、剰余金の配当として(株)オージック保有の美原精工(株)及び(株)フジタイトの株式を当社に現物配当することを決議し、2020年9月29日に実施いたしました。これにより、当社は孫会社の株式等を取得することとなり、子会社の直接保有に係る異動が生じております。

1. 取引の概要

(1) 子会社の現物配当(組織再編)の理由

当社グループはコーポレート・ガバナンスの強化を図ることを目的として、グループ体制の見直しを行い持株会社化を円滑に進める方針の一環として、当社の完全子会社である(株)オージックは、剰余金の配当として同社保有の子会社株式を当社へ現物配当(適格現物分配)することを決議いたしました。

これにより、当社は、美原精工(株)及び(株)フジタイトの(株)オージックが保有する全株式を取得し、これら2社は当社の直接保有の子会社に該当することになりました。

(2) (株)オージックの剰余金の処分について

(株)オージックは、その他利益剰余金を原資として、剰余金の配当(現物配当)を実施いたしました。

① 当社に対する配当財産の種類及び帳簿価額の総額

当社に対する配当財産の種類は、金銭以外の財産(普通株式)であり、配当金支払額は(株)オージックの直前の帳簿価額とし、以下のとおりとなります。

会社名	配当財産の種類	株式数(株)	帳簿価額(千円)
美原精工(株)	普通株式	896,000	130,640
(株)フジタイト	普通株式	200	129,500
計	—	—	260,140

② 配当財産の割り当てに関する事項

現物配当の効力発生時点において、(株)オージックの発行済株式の全てを保有する株主である当社に対して、配当財産の全てが割り当てられました。

③ 剰余金の配当効力発生日

2020年9月29日

2. 実施予定の会計処理の概要

「企業結合に関する会計基準」（企業会計基準第21号 2019年1月16日）及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」（企業会計基準適用指針第10号 2019年1月16日）に基づき、共通支配下の取引として処理する予定であります。

（株式分割及び株式分割に伴う定款の一部変更）

当社は、2020年11月11日開催の取締役会において、株式分割及び株式分割に伴う定款の一部変更を行うことを決議いたしました。

（1）株式分割の目的

当社株式の流動性を図ることを目的としております。

（2）株式分割の概要

① 分割の方法

2020年12月9日を基準日として、同日最終の株主名簿に記載又は記録された株主の所有する普通株主を1株につき10株の割合をもって分割いたしました。

② 分割により増加する株式数

株式分割前の発行済株式総数	130,001株
株式分割により増加する株式数	1,170,009株
株式分割後の発行済株式総数	1,300,010株
株式分割後の発行可能株式総数	5,200,000株

③ 分割の日程

基準公告日	2020年11月20日
基準日	2020年12月9日
効力発生日	2020年12月10日

④ 1株当たり情報に及ぼす影響

1株当たり情報に及ぼす影響については、当該箇所に記載しております。

（連結子会社間の吸収合併）

当社は、2021年2月11日開催の取締役会において、2021年5月1日を効力発生日として当社連結子会社である㈱オージックを吸収合併存続会社、㈱鍛冶屋、美原精工㈱を吸収合併消滅会社とする吸収合併を行うことを決議いたしました。

1. 合併の目的

グループ経営の推進による営業及び製造面でのシナジー効果の最大化の追求、並びに管理面での業務効率向上をはじめとした効果を早期に創出するために必要と判断いたしました。

2. 合併の要旨

（1）合併の日程

取締役会決議日（当社）	2021年2月11日
効力発生日	2021年5月1日

（2）合併の方式

㈱オージックを存続会社とする吸収合併方式で、㈱鍛冶屋、美原精工㈱は解散いたしました。

（3）結合後企業の名称

(株)オージック

- (4) 合併に伴う新株予約権及び新株予約権付社債に関する取り扱い
該当事項はありません。

3. 実施予定の会計処理の概要

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 2019年1月16日)及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第10号 2019年1月16日)に基づき、共通支配下の取引として処理する予定であります。

(中間連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1. 連結の範囲に関する事項

(1) 連結子会社の数

7社

連結子会社の名称

(株オージック、(株)セイエン、(株)鍛冶屋、(株)三翔精工、美原精工(株)、(株)フジタイト、JLTA

(2) 非連結子会社の数 一社

2. 持分法の適用に関する事項

持分法適用の関連会社数 一社

3. 連結子会社の中間決算日等に関する事項

連結子会社の中間決算日が連結中間決算日と異なる会社は次のとおりであります。

会社名	中間決算日
(株)三翔精工	11月30日 ※1
(株)フジタイト	10月31日 ※1
JLTA	6月30日 ※2

※1 連結子会社の中間決算日現在の財務諸表を使用しております。ただし、連結中間決算日との間に生じた重要な取引については、連結上必要な調整を行っております。

※2 中間連結決算日現在で本決算に準じた仮決算を行った財務諸表を基礎としております。

4. 会計方針に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

① 有価証券

その他有価証券

時価のあるもの

期末日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）を採用しております。

時価のないもの

移動平均法による原価法を採用しております。

② たな卸資産

当社及び連結子会社は主として移動平均法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切り下げの方法により算定）を採用しております。

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

① 有形固定資産（リース資産を除く）

当社及び国内連結子会社は定率法を採用しております。ただし、1998年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備を除く）並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法を採用しております。機械装置についても定額法によっております。

また、在外連結子会社は定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりです。

建物及び構築物	6～47年
機械装置及び運搬具	2～10年

② 無形固定資産（リース資産を除く）

定額法を採用しております。

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内利用可能期間（5年）に基づく定額法を採用しております。

③ リース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

④ 長期前払費用

均等償却によっております。

(3) 重要な引当金の計上基準

① 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、当社及び国内連結子会社は一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。また在外連結子会社は主として特定の債権について回収不能見込額を計上しております。

② 賞与引当金

当社および国内連結子会社は従業員に対して支給する賞与の支出に充てるため、支給見込額の当中間連結会計期間負担額を計上しております。

③ 役員退職慰労引当金

当社および国内連結子会社は役員の退職慰労金の支出に備えて、役員退職慰労金規程に基づく期末要支給額を計上しております。

(4) 退職給付に係る会計処理の方法

当社及び国内連結子会社は、退職給付に係る負債及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。

(5) 重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算の基準

外貨建金銭債権債務は、連結中間決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。なお、在外子会社等の資産及び負債は、連結中間決算日の直物為替相場により円貨に換算し、収益及び費用は期中平均相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定及び非支配株主持分に含めて計上しております。

(6) 重要なヘッジ会計の方法

① ヘッジ会計の方法

繰延ヘッジ処理を採用しております。また、金利スワップについて特例処理の条件を充たしている場合には特例処理を採用しております。

② ヘッジ手段とヘッジ対象

a ヘッジ手段・・・金利スワップ

b ヘッジ対象・・・借入金

③ ヘッジ方針

金利リスクの低減並びに金融収支改善のため、対象債務の範囲でヘッジを行っております。

④ ヘッジ有効性評価の方法

特例処理によっている金利スワップのみであるため、有効性の評価を省略しております。

(7) のれんの償却方法及び償却期間

5年間から10年間の定額法により償却を行っております。

(8) 中間連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりリスクしか負わない取得日から3か月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。

(9) その他中間連結財務諸表作成のための重要な事項

① 消費税等の会計処理

税抜方式によっております。

(追加情報)

新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響に関する会計上の見積り

当社グループは、固定資産の減損や繰延税金資産の回収可能性等の会計上の見積りにおいて、当中間連結会計期間末時点で入手可能な情報に基づき実施しております。

なお、新型コロナウイルス感染症の広がりや収束時期等の予測には不確実性を伴うため、実際の結果はこれらの見積りと異なる場合があります。

(中間連結貸借対照表関係)

※1 有形固定資産の減価償却累計額

	当中間連結会計期間 (2020年12月31日)
有形固定資産の減価償却累計額	6,843,077千円

※2 担保資産及び担保付債務

担保に供している資産は、次のとおりであります。

	当中間連結会計期間 (2020年12月31日)
定期預金(現金及び預金)	3,000千円
建物及び構築物	481,011千円
土地	464,579千円
計	948,590千円

担保付債務は、次のとおりであります。

	当中間連結会計期間 (2020年12月31日)
短期借入金	20,000千円
1年以内返済予定長期借入金	324,780千円
長期借入金	1,058,629千円
計	1,403,409千円

※3 圧縮記帳

国庫補助金等により有形固定資産の取得価額から控除している圧縮記帳額及びその内訳は、次のとおりであります。

	当中間連結会計期間 (2020年12月31日)
圧縮記帳額	40,000千円
(うち、機械装置及び運搬具)	30,000千円
(うち、その他)	10,000千円

※4 中間連結会計期間末日満期手形等

当中間連結会計期間末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しております。なお、当中間連結会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の期末日満期手形が受取手形の期末残高に含まれております。

	当中間連結会計期間 (2020年12月31日)
受取手形	30,908千円

※5 当座貸越契約

連結子会社(㈱オージック、㈱セイエン、㈱鍛冶屋、㈱三翔精工、㈱フジタイト)においては、運転資金の効率的な調達を行うため取引銀行7行と当座貸越契約を締結しております。これらの契約に基づく連結会計年度末における当座貸越契約に係る借入未実行残高は次の通りであります。

	当中間連結会計期間 (2020年12月31日)
当座貸越限度額	520,000千円
借入実行残高	56,250千円
差引額	463,750千円

※6 財務制限条項

一部の連結子会社は、金融機関との間で、各年度の決算期における損益計算書に示される営業損益が2020年6月期以降の決算期につき2期連続して損失とならないようにすることとする財務制限条項が付された金銭消費貸借契約を締結しており、当該借入金の残高は以下となります。

当中間連結会計期間（2020年12月31日）

1年以内返済予定長期借入金	44,004千円
長期借入金	153,994千円

（中間連結損益計算書関係）

※1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	当中間連結会計期間 (自 2020年7月1日 至 2020年12月31日)
役員報酬	49,773千円
給料手当	105,687千円
減価償却費	51,200千円
賞与引当金繰入額	10,817千円
退職給付費用	25,626千円
役員退職引当金繰入額	3,410千円

※2 固定資産売却益の内容は、次のとおりであります。

	当中間連結会計期間 (自 2020年7月1日 至 2020年12月31日)
機械装置及び運搬具	3,139千円
計	3,139千円

※3 固定資産売却損の内容は、次のとおりであります。

	当中間連結会計期間 (自 2020年7月1日 至 2020年12月31日)
機械装置及び運搬具	1,262千円
計	1,262千円

(中間連結株主資本等変動計算書関係)

当中間連結会計期間(自 2020年7月1日 至 2020年12月31日)

1. 発行済株式に関する事項

	当連結会計年度 期首株式数(株)	当中間連結会計期間 増加株式数(株)	当中間連結会計期間 減少株式数(株)	当中間連結会計期間末 株式数(株)
普通株式 (注1)	130,001	1,170,009	—	1,300,010

(注) 1. 当社は、2020年12月10日付けで、普通株式1株につき10株の割合で株式分割を行っております。

2. 自己株式の種類及び株式に関する事項

該当事項はありません。

3. 新株予約権に関する事項

該当事項はありません。

4. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
2020年9月28日 定時株主総会	普通株式	7,800	60	2020年6月30日	2020年9月29日

(2) 基準日が当中間連結会計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当中間連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

(中間連結キャッシュ・フロー計算書関係)

※1 現金及び現金同等物の中間期末残高と中間連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	当中間連結会計期間 (自 2020年7月1日 至 2020年12月31日)
現金及び預金勘定	1,385,366千円
預入期間が3か月を超える定期預金	△40,797千円
現金及び現金同等物	1,344,569千円

(リース取引関係)

1. ファイナンス・リース取引

所有権移転外ファイナンス・リース取引

① リース資産の内容

有形固定資産「機械装置及び運搬具」であります。

② リース資産の減価償却の方法

中間連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項「4. 会計方針に関する事項 (2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法」に記載の通りであります。

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、資金運用については短期的な預金等に限定し、また、資金調達については金融機関からの借入及び新株発行による方針であります。また、デリバティブ取引は、金利リスクを回避するために利用しており、投機的な取引は行わない方針であります。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である売掛金は顧客の信用リスクに晒されております。

営業債務である買掛金等は、そのほとんどが3か月以内の支払期日であります。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

①信用リスク（取引先の契約不履行等に係るリスク）の管理

営業債権は売掛金等については、経常的に発生しており、担当者が、所定の手続きに従い、債権回収の状況を定期的にモニタリングを行い、支払遅延の早期把握や回収リスクの軽減を図っております。

特に金額等の重要性が高い取引については、取締役会において、取引実行の決定や回収状況の報告などを行います。

②市場リスク（為替や金利等の変動リスク）の管理

投資有価証券については、定期的に発行体（取引先企業）の財務状況を把握しております。

③資金調達に係る流動性リスク（支払期日に支払いを実行できなくなるリスク）の管理

買掛金及び未払金については月次単位での支払予定を把握するとともに、手元流動性の維持などにより流動性リスクを管理しております。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することがあります。

2. 金融商品の時価等に関する事項

当中間連結会計期間（2020年12月31日）

	中間連結貸借対照表計上額(千円)	時価(千円)	差額(千円)
(1) 現金及び預金	1,385,366	1,385,366	—
(2) 受取手形及び売掛金	840,636	840,636	—
資産計	2,226,003	2,226,003	—
(1) 買掛金	117,586	117,586	—
(2) 未払金	298,653	298,653	—
(3) 短期借入金	113,850	113,850	—
(4) 長期借入金（1年内返済予定を含む）	2,837,253	2,856,616	19,363
(5) リース債務（長期リース債務を含む）	899,668	894,755	△4,912
負債計	4,267,010	4,281,460	14,451

(注) 1. 金融商品の時価の算定方法

資産

(1) 現金及び預金、(2) 受取手形及び売掛金

短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

負債

(1) 買掛金、(2) 未払金、(3) 短期借入金

短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(4) 長期借入金（1年内返済予定を含む）、(5) リース債務（長期リース債務を含む）

これらの時価については、元利金の合計額を新規に同様の借入又はリース取引を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。

2. 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品の連結貸借対照表計上額

(単位：千円)

区分	当中間連結会計期間 (2020年12月31日)
非上場株式	63,028

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、「2. 金融商品の時価等に関する事項」には含めておりません。

(デリバティブ取引関係)

1. ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

(1) 金利関係

当中間連結会計期間 (2020年12月31日)

ヘッジ会計の方法	デリバティブ取引の種類等	主なヘッジ対象	契約額等 (千円)	契約額等のうち 1年超 (千円)	時価 (千円)
金利スワップの特例処理	金利スワップ取引 支払固定・受取変動	長期借入金	32,384	12,956	(注)

(注) 金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価は、長期借入金の時価を含めて記載しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当社グループは金属部品加工事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

【関連情報】

当中間連結会計期間 (自 2020年7月1日 至 2020年12月31日)

1. 製品及びサービスごとの情報

単一の製品・サービスの区分の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

顧客の名称又は氏名	売上高 (千円)	関連するセグメント名
DMG森精機(株)	183,387	金属部品加工事業
京セラ(株)	177,877	金属部品加工事業

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

当中間連結会計期間 (自 2020年7月1日 至 2020年12月31日)

該当事項はありません。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

当中間連結会計期間 (自 2020年7月1日 至 2020年12月31日)

当社グループは、金属部品加工事業の単一セグメントであり、記載を省略しております。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

当中間連結会計期間 (自 2020年7月1日 至 2020年12月31日)

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

区分	当中間連結会計期間 (自 2020年7月1日 至 2020年12月31日)
1株当たり純資産額	819.91円
1株当たり中間純利益	35.04円

- (注) 1. 当社は2020年12月10日付で普通株式1株につき10株の株式分割を行いました。
当連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、1株当たり純資産額及び1株当たり中間純利益を算定しております。
2. 潜在株式調整後1株当たり中間当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
3. 1株当たり中間純利益の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	当中間連結会計期間 (自 2020年7月1日 至 2020年12月31日)
親会社株主に帰属する中間純利益 (千円)	45,551
普通株主に帰属しない金額 (千円)	—
普通株式に係る親会社株主に帰属 する中間純利益(千円)	45,551
普通株式の期中平均株式(株)	1,300,010

(重要な後発事象)

(連結子会社間の吸収合併)

当社は、2021年2月11日開催の取締役会において、2021年5月1日を効力発生日として当社連結子会社である(株)オージックを吸収合併存続会社、(株)鍛冶屋、美原精工(株)を吸収合併消滅会社とする吸収合併を行うことを決議いたしました。

1. 合併の目的

グループ経営の推進による営業及び製造面でのシナジー効果の最大化の追求、並びに管理面での業務効率向上をはじめとした効果を早期に創出するために必要と判断いたしました。

2. 合併の要旨

(1) 合併の日程

取締役会決議日(当社) 2021年2月11日
効力発生日 2021年5月1日

(2) 合併の方式

(株)オージックを存続会社とする吸収合併方式で、(株)鍛冶屋、美原精工(株)は解散いたしました。

(3) 結合後企業の名称

(株)オージック

(4) 合併に伴う新株予約権及び新株予約権付社債に関する取り扱い

該当事項はありません。

3. 実施予定の会計処理の概要

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 2019年1月16日)及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第10号 2019年1月16日)に基づき、共通支配下の取引として処理する予定であります。

⑤【連結附属明細表】

【社債明細表】

会社名	銘柄	発行年月日	当期首残高 (千円)	当期末残高(千 円)	利率 (%)	担保	償還期限
オージックグル ープ(株)	私募債	年月日 2011. 7. 10	30,000	—	10.0	なし	年月日 2021. 7. 10
(株)オージック	私募債	2011. 7. 10	100,000	—	10.0	なし	2021. 7. 10
(株)オージック	私募債	2011. 7. 20	150,000	—	10.0	なし	2021. 7. 10
合計	—	—	280,000	—	—	—	—

(注) 全て2020年5月31日に早期償還しております。

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期末残高 (千円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	133,350	151,350	0.57	—
1年以内に返済予 定の長期借入金	527,434	654,670	0.47	—
1年以内に返済予 定のリース債務	247,530	286,534	—	—
長期借入金 (1年以内に返済予 定のものを除く。)	1,733,132	2,195,006	0.51	2020年～ 2037年
リース債務 (1年以内に返済予 定のものを除く。)	772,752	732,402	—	—
合計	3,414,200	4,019,962	—	—

(注) 1. 平均利率については、期末借入金残高に対する加重平均利率を記載しております。

2. 長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く)の決算日後5年間の連結返済予定額は以下のとおりであります。

区分	1年超2年以内 (千円)	2年超3年以内 (千円)	3年超4年以内 (千円)	4年超5年以内 (千円)
長期借入金	665,855	573,390	353,086	204,275
リース債務	271,897	213,691	137,884	94,880

【資産除去債務明細表】

該当事項はありません。

(2)【主な資産及び負債の内容】

連結財務諸表を作成しているため、記載を省略しております。

(3)【その他】

該当事項はありません。

第7【外国為替相場の推移】

該当事項はありません。

第8【発行者の株式事務の概要】

事業年度	毎年7月1日から翌年6月30日まで
定時株主総会	毎事業年度の終了後3か月以内
基準日	毎事業年度末日
株券の種類	—
剰余金の配当の基準日	毎年6月30日
1単元の株式数	100株
株式の名義書換え	
取扱場所	大阪市中央区北浜四丁目5番33号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
取次所	三井住友信託銀行株式会社 全国各支店
名義書換手数料	無料
新券交付手数料	—
単元未満株式の買取り	
取扱場所	大阪市中央区北浜四丁目5番33号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
取次所	三井住友信託銀行株式会社 全国各支店
買取手数料	無料
公告掲載方法	電子公告により行う。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載する。 公告掲載 URL http://www.ogicgroup.co.jp/news/
株主に対する特典	該当事項はありません。

(注) 当会社の株主は、その有する単元未満株式について、次に掲げる権利以外の権利を行使することができない旨を定款に定めております。
 会社法第189条第2項各号に掲げる権利
 会社法第166条第1項の規定による請求をする権利
 株主の有する株式数に応じて募集株式の割当て及び募集新株予約権の割当てを受ける権利

第二部【特別情報】

第1【外部専門家の同意】

該当事項はありません。

第三部【株式公開情報】

第1【特別利害関係者等の株式等の移動状況】

移動年月日	移動前所有者の氏名又は名称	移動前所有者の住所	移動前所有者の発行者との関係等	移動後所有者の氏名又は名称	移動後所有者の住所	移動後所有者の発行者との関係等	移動株数(株)	価格(単価)(円)	移動理由
2020年 4月30日	一般社団法人フィロソフィー協会 代表理事 田中文彦	奈良県生駒郡平群町緑ヶ丘六丁目1番28号	特別利害関係者等 (大株主上位10名)	田中 文彦	奈良県生駒郡平群町	特別利害関係者等 (当社取締役)	普通株式 20,000	20,000 (注)3	当社グループの再編のため。

(注) 1. 当社は、TOKYO PRO Market への上場を予定しております。同取引所が定める特定上場有価証券に関する有価証券上場規定の特例第 115 条及び同規定施行規則第 106 条の規定において、当社グループは上場日から5年間、新規上場申請日の直前事業年度(上場日が属する連結会計年度の前連結会計年度をいい、当該上場日が決算頃の翌日から定時株主総会までの間に当たる場合には、上場日が属する連結会計年度の前々連結会計年度をいう)の末日(2020年6月30日)から起算して2年前(2018年7月1日)から上場日の前日までの期間において、特別利害関係者等が当社の発行する株式若しくは新株予約権の譲受け若しくは譲渡(上場前の募集、売出し、特定投資家向け取得勧誘及び特定投資家向け売付け勧誘等を除き、新株予約券の行使を含む)を行っている場合には、それらの状況に係る記載内容についての記録を保存するものとされております。

2. 特別利害関係者等の範囲は次のとおりであります。

- (1) 当社グループの特別利害関係者……役員、その配偶者及び二親等内の血族(以下「役員等」という。)、役員等により総株主の過半数が所有されている会社並びに関係会社及びその役員
- (2) 当社グループの大株主上位10名
- (3) 当社グループの人的関係会社及び資本的関係会社並びにこれらの役員
- (4) 金融商品取引業者(金融商品取引法第28条第8項に規定する有価証券関連業を行う者に限る。)及びその役員並びに金融商品取引業者の人的関係会社及び資本的関係会社

3. 移動価格は、時価純資産額方式により算出した価格に基づき、当事者間での協議の上決定した価格であります。

4. 2020年5月15日付で、当社普通株式20,000株を1株とする株式併合を実施し、2020年12月10日付で普通株式1株につき10株とする株式分割を行いました。上記移動株数及び単価は株式併合及び株式分割前の移動株数及び単価で記載しております。

第2【第三者割当等の概況】

該当事項はありません。

第3【株主の状況】

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	株式の総数に対する 所有株式数の割合 (%)
田中 文彦 (注) 1、2	奈良県生駒郡平群町	629,110	48.4
大阪中小企業投資育成(株) (注) 1	大阪府大阪市北区中之島3-3-23	520,000	40.0
田中 純子 (注) 1、3	奈良県生駒郡平群町	89,700	6.9
田中 汰樹 (注) 1、4	奈良県生駒郡平群町	41,200	3.1
真鍋 清信 (注) 1、5	奈良県香芝市	10,000	0.8
山本 秀雄 (注) 1、5	大阪府東大阪市	10,000	0.8
計	—	1,300,010	100.0

- (注) 1. 特別利害関係者等 (大株主上位 10 名)
 2. 特別利害関係者等 (当社の代表取締役社長)
 3. 特別利害関係者等 (当社の代表取締役社長の配偶者)
 4. 特別利害関係者等 (当社の代表取締役社長の二親等内の血族)
 5. 特別利害関係者等 (当社子会社の取締役)
 6. 株式総数に対する所有株式数の割合は、小数点以下第3位を四捨五入しております。


独立監査人の監査報告書

2021年5月25日


オージックグループ株式会社
取締役会 御中

ひかり監査法人
京都事務所

指定社員
業務執行社員 公認会計士

岩永憲秀 

指定社員
業務執行社員 公認会計士

三王知行 

監査意見

当監査法人は、株式会社東京証券取引所の「特定上場有価証券に関する有価証券上場規程の特例」第110条第5項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられているオージックグループ株式会社の2019年7月1日から2020年6月30日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、オージックグループ株式会社及び連結子会社の2020年6月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「連結財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

強調事項

1. 重要な後発事象に記載されているとおり、子会社である株式会社オージックは2020年9月28日開催の定時株主総会において、保有する美原精工株式会社及び株式会社フジタイトの全株式を現物配当することを決議し、2020年9月29日に実施した。
2. 重要な後発事象に記載されているとおり、会社は2020年11月11日開催の取締役会において2020年12月10日付を効力発生日とした株式分割を行うことを決議し、実施した。
3. 重要な後発事象に記載されているとおり、会社は2021年2月11日開催の取締役会にて子会社である株式会社オージックを吸収合併存続会社、株式会社鍛冶屋及び美原精工株式会社を吸収合併消滅会社とする吸収合併を行う決議をし、2021年5月1日に実施した。
当該事項は、当監査法人の意見に影響を及ぼすものではない。

その他の事項

会社の2019年6月30日をもって終了した前連結会計年度の連結財務諸表は監査されていない。

連結財務諸表に対する経営者及び監査役の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業を前提に基づき連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

連結財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての連結財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、連結財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 連結財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として連結財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業を前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業を前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、連結財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。
- ・ 連結財務諸表に対する意見を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する十分かつ適切な監査証拠を入手する。監査人は、連結財務諸表の監査に関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査意見に対して責任を負う。

監査人は、監査役に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査役に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。


独立監査人の中間監査報告書

2021年5月25日


オージックグループ株式会社
取締役会 御中

ひかり監査法人
京都事務所

指定社員
業務執行社員 公認会計士

岩永憲秀 

指定社員
業務執行社員 公認会計士

三王知行 

中間監査意見

当監査法人は、株式会社東京証券取引所の「特定上場有価証券に関する有価証券上場規程の特例」第110条第5項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられているオージックグループ株式会社の2020年7月1日から2021年6月30日までの連結会計年度の中間連結会計期間（2020年7月1日から2020年12月31日まで）に係る中間連結財務諸表、すなわち、中間連結貸借対照表、中間連結損益計算書、中間連結包括利益計算書、中間連結株主資本等変動計算書、中間連結キャッシュ・フロー計算書、中間連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項及びその他の注記について中間監査を行った。

当監査法人は、上記の中間連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間連結財務諸表の作成基準に準拠して、オージックグループ株式会社及び連結子会社の2020年12月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する中間連結会計期間（2020年7月1日から2020年12月31日まで）の経営成績及びキャッシュ・フローの状況に関する有用な情報を表示しているものと認める。

中間監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に準拠して中間監査を行った。中間監査の基準における当監査法人の責任は、「中間連結財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

強調事項

重要な後発事象に記載されているとおり、会社は2021年2月11日開催の取締役会にて子会社である株式会社オージックを吸収合併存続会社、株式会社鍛冶屋及び美原精工株式会社を吸収合併消滅会社とする吸収合併を行う決議をし、2021年5月1日に実施した。

当該事項は、当監査法人の意見に影響を及ぼすものではない。

中間連結財務諸表に対する経営者及び監査役の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間連結財務諸表の作成基準に準拠して中間連結財務諸表を作成し有用な情報を表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない中間連結財務諸表を作成し有用な情報を表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

中間連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき中間連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる中間連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

中間連結財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した中間監査に基づいて、全体として中間連結財務諸表の有用な情報の表示に関して投資者の判断を損なうような重要な虚偽表示がないかどうかの合理的な保証を得て、中間監査報告書において独立の立場から中間連結財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、中間連結財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に従って、中間監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による中間連結財務諸表の重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応する中間監査手続を立案し、実施する。中間監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。なお、中間監査手続は、年度監査と比べて監査手続の一部が省略され、監査人の判断により、不正又は誤謬による中間連結財務諸表の重要な虚偽表示リスクの評価に基づいて、分析的手続等を中心とした監査手続に必要な応じて追加の監査手続が選択及び適用される。
- ・ 中間連結財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な中間監査手続を立案するために、中間連結財務諸表の作成と有用な情報の表示に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として中間連結財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、中間監査報告書において中間連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する中間連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、中間連結財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、中間監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 中間連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間連結財務諸表の作成基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた中間連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに中間連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象に関して有用な情報を表示しているかどうかを評価する。
- ・ 中間連結財務諸表に対する意見を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する十分かつ適切な監査証拠を入手する。監査人は、中間連結財務諸表の中間監査に関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で中間監査意見に対して責任を負う。

監査人は、監査役に対して、計画した中間監査の範囲とその実施時期、中間監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む中間監査上の重要な発見事項、及び中間監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査役に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。